

プロミュージシャン学科

2年次生

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アンサンブルⅡ
担当講師名	石川具幸、稲葉智、内田充、三枝俊治、寺沢功一、宮永治郎、山本英武、河野裕一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はそれぞれ音楽業界で演奏活動、作詞、作曲、アレンジなどの経験を持ちます。

授業内容

1年次に学んだアンサンブルの基礎知識を活かして、更にジャンルを掘り下げた課題曲やオリジナル楽曲を中心に授業を展開していきます。

バンド単位でのアンサンブルとして、パートごとの役割を把握し楽曲の構成やアレンジ、表現力などを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

少しでも早く自分のパートに慣れて、常にアンサンブル全体を見据えた演奏が出来るようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション・課題曲の紹介。予習の方法、楽器の取り扱い、試験までの流れ等について説明するとともに、課題曲についての紹介を行います。
- ②バンドアンサンブル演習 1、課題曲の構成の確認やメロディコード譜面の用意をします。
- ③バンドアンサンブル演習 2、メロディや構成を考え、パートごとにアレンジを煮詰めていきます。
- ④バンドアンサンブル演習 3、パートごとのアレンジを煮詰めていくと共に、楽曲全体を通した表現方法を考えます。
- ⑤バンドアンサンブル演習 4、メロディ主体のアンサンブルを更に煮詰めていきます。
- ⑥1クォーターのまとめ。クォーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。
- ⑦クォーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

授業計画（8回目から15回目）

⑧オリエンテーション・課題曲の紹介。予習の方法、楽器の取り扱い、試験までの流れ等について説明するとともに、課題曲についての紹介を行います。

⑨バンドアンサンブル演習 1、課題曲の構成の確認やメロディコード譜面の用意をします。

⑩バンドアンサンブル演習 2、メロディや構成を考え、パートごとにアレンジを煮詰めていきます。

⑪バンドアンサンブル演習 3、パートごとのアレンジを煮詰めていくと共に、楽曲全体を通じた表現方法を考えます。

⑫バンドアンサンブル演習 4、メロディ主体のアンサンブルを更に煮詰めていきます。

⑬PDCA。前のステージで出来たこと、出来なかったことを再認識し、ステージプランニングをします。

⑭2 クォーターのまとめ。クォーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。

⑮クォーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アンサンブルⅡ
担当講師名	石川具幸、稲葉智、内田充、三枝俊治、寺沢功一、宮永治郎、山本英武、河野裕一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はそれぞれ音楽業界で演奏活動、作詞、作曲、アレンジなどの経験を持ちます。

授業内容

3・4 クォーターではアンサンブルの基本事項を確実に理解すると共にオリジナル曲を中心にバンドとしての表現力やオリジナリティの演出についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今までのアンサンブルで学んだ経験をもとに、ヴォーカルやメロディ楽器主体の音作りやアレンジ力を強化したり、パート(楽器)という立場から離れ常にバンドアンサンブル全体を見渡せる応用力を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①課題曲の選定。オリジナル曲(など)課題曲の選定をします
- ②バンドアンサンブル実習 1、楽曲タイトル、歌詞、構成、コード進行などを確認します。
- ③バンドアンサンブル実習 2、全体を通して練習し楽曲構成の理解に務めます。
- ④バンドアンサンブル実習 3、構成に準じたアレンジ、ソロパートの設定などを行います。
- ⑤バンドアンサンブル実習 4、イントロの空気感、サビへのつなげ方、ブリッジの演出方法などを考えます。
- ⑥3 クォーターのまとめ。クォーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。
- ⑦クォーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項

目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲の選定。オリジナル曲(など)課題曲の選定をします。
- ⑨バンドアンサンブル実習 5、楽曲タイトル、歌詞、構成、コード進行などを確認します。
- ⑩バンドアンサンブル実習 6、全体を通して練習し楽曲構成の理解に務めます。
- ⑪バンドアンサンブル実習 7、構成に準じたアレンジ、ソロパートの設定などを行います。
- ⑫バンドアンサンブル実習 8、イントロの空気感、サビへのつなげ方、ブリッジの演出方法などを考えます。
- ⑬バンドアンサンブル実習 9、バンドとしての表現力、オリジナリティの強化を考えます。
- ⑭4 クォーターのまとめ。ライブを想定しながら、メンバー間のコミュニケーションや、パフォーマンスを練習します。
- ⑮クォーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	河野裕一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽プロダクションにおいて CD 制作のディレクター、コンサート・ツアー制作などの実務経験を持ちます。

授業内容

学校内での行催事、学事、学科内の行催事に対する事前準備や作業、自己活動において必要となってくるプロフィールやその他資料の作成の仕方、外部プレゼンテーションの際に注意すべき事項など、例を追って指導。実際に資料作成なども行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己の音楽活動、就職活動における適切な資料作成とプレゼンテーションの仕方を知り、身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①個人別時間割・履修科目確認。生活習慣・ルール・マナーについて確認します。公共性・責任感・ステージに立つことの意味を考えます。
- ②GW 前指導・学科ライブ・FIRST STEP エントリー。防犯（詐欺・悪徳商法）、勧誘・スカウト・オーディションなどについての注意事項を知ります。
- ③面談スケジュール・学科 LIVE、FIRST STEP について。自分の自己計画表を作成しチェック、セルフイメージを具体的にします。
- ④FIRST STEP について。プロフィールを作成しオーディションへの応募と注意事項などを確認します。
- ⑤合同説明会について。自分の活動に対するフライヤー作成指導や履歴書作成指導を行います。
- ⑥授業内試験及び実技・アンサンブル試験スケジュール。CD ジャケットの形式について知ります。
- ⑦全授業、出席再確認。現状の自分の位置を確認しましょう。

中間試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%として評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧FIRST STEP・夏フェスについて。オーディション、夏のライブイベントについて考察します。
- ⑨プロフィール作成。履歴書の意味、プロフィールの意味について考え、何をアピールするのかを明確にします。
- ⑩マナーについて。ことば（話し言葉と書き言葉、男言葉と女言葉、差別用語、禁止用語、MC）について考えます。出席勧告。自分の現状の確認をします。
- ⑪出席勧告。自分の現状の確認をします。
- ⑫夏休み前指導。長期休暇を前に、何が起こりうるかを確認し各自注意すべきことを確認します。休み中にできることとしたいことを明確にします。
- ⑬授業内試験、実技・アンサンブル試験スケジュール。スケジュールの確認とともに、防災（台風、火災、地震）についての意識を高めます。
- ⑭FIRST STEP、アンサンブル試験、演奏映像を観て、ステージで何を伝えるのかを考えます。
- ⑮試験後のスケジュール確認。施設使用予定。現状の自分の位置を確認しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30% クォーターごとのまとめ

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	河野裕一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽プロダクションにおいて CD 制作のディレクター、コンサート・ツアー制作などの実務経験を持ちます。

授業内容

学校内での行催事、学事、学科内の行催事に対する事前準備や作業、自己活動において必要となってくるプロフィールやその他資料の作成の仕方、外部プレゼンテーションの際に注意すべき事項など、例を追って指導。実際に資料作成なども行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己の音楽活動、就職活動における適切な資料作成とプレゼンテーションの仕方を知り、身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期成績表配付・授業アンケート実施。成績表の配布、授業アンケートを記入、回収します。また秋学期のスケジュールを確認します。
- ②個人面談スケジュール・FIRST STEP について。自己計画表の Ver. 3 を作成、提出します。
- ③個別面談。公共性・責任感について考えましょう。連絡、報告、返信、確認、記録、整理などの自己チェックをします。
- ④個別面談。公共性・責任感について考えましょう。連絡、報告、返信、確認、記録、整理などの自己チェックをします。
- ⑤MC・ステージングについて。ステージでの MC やステージングについて考え、敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語）についても再確認をしてみます。
- ⑥授業内試験、実技・アンサンブル試験スケジュール。防疫・生活管理・身体ケアについての確認。
- ⑦3Q 授業科目試験

中間試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%として評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧学科 LIVEに向けて。季節感とステージングについて考えましょう。
- ⑨冬休み前指導。自己計画表4の作成、提出。社会ルールや法律について理解を深め、飲酒、喫煙、ドラッグなどについて考えましょう。
- ⑩出席確認。外見・言動・コミュニケーションについて考え、成人・社会人としてのやり取りとはどうあるべきなのか考えます。
- ⑪出席確認、保護者連絡。社会人として、知っておきたいルール成人はどう扱われるのかを理解しておきましょう。
- ⑫卒業後の仕事について、生活について1。卒業後の仕事について、生活について考えます。
- ⑬卒業後の仕事について、生活について2。卒業後の仕事について、生活について考えます。
- ⑭最後の試験について、追試・再試、卒業。授業内試験、実技・アンサンブル試験スケジュール
- ⑮4Q 授業科目試験。卒業後の活動計画を立て、最終スケジュール確認（～3月末）を確認します。

期末試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30% クォーターごとのまとめ

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅢ
担当講師名	芦澤和則
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

SSW 専攻／オリジナル曲にアレンジを施しレコーディング+MIX を学びます。
B. Vo 専攻／各々の専攻実技で受講しているカバー曲を中心にレコーディングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

SSW 専攻／オーディション、業界配布を想定した音源作りに役立てます。
B. Vo 専攻／録音物で自分の Vo をチェックしレベルアップに役立てます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①録音～MIX までの概要
- ②オリジナリティ探求
- ③楽曲選考、アレンジメント
- ④レコーディング A-1（生楽器[SSW]、カラオケ[B. Vo]）
- ⑤レコーディング A-2（生楽器重ね[SSW]、歌[B. Vo]）
- ⑥レコーディング A-3（歌&コーラス[SSW]、歌[B. Vo]）
- ⑦中間試験（MIX）

中間試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。
出席:50% 平常点:30% 試験:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧目標設定
- ⑨楽曲選考、アレンジメント

- ⑩レコーディング B-1
- ⑪レコーディング B-2
- ⑫レコーディング B-3
- ⑬ミックスについて #1
- ⑭ミックスについて #2
- ⑮期末試験 (MIX)

期末試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。
出席:50% 平常点:30% 試験:20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅢ
担当講師名	前田基彦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。

授業内容

レコーディングスタジオにおいて必要な知識を習得する授業です。ミュージシャン、プレイヤーとして無くてはならないレコーディングにおける必要知識（キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル等）を、近年主要国の音楽チャートに入った楽曲を題材に学んでいきます。また、最近の楽曲のアレンジを研究、演奏することで授業外での活動（バンドやアレンジ等）のヒントとなるように解説、指導します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディング習慣の習得、キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①楽曲1発表、楽譜作成を指導します
- ②実演方法確認作業を対面で行います。
- ③演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ④楽曲2発表、楽譜作成を指導します
- ⑤実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑥演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ⑦楽曲3発表、楽譜作成を指導します

中間試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、レポート（譜面作成スキル）30%、欠席や遅刻の有無30%、受講態度や積極性10%で算出致します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑨演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ⑩楽曲4発表、楽譜作成を指導します
- ⑪実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑫演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ⑬楽曲5発表、楽譜作成を指導します
- ⑭実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑮演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト

期末試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、 レポート（譜面作成スキル）30%、 欠席や遅刻の有無30%、 受講態度や積極性10%で算出致します。

特記事項

なし

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅢ
担当講師名	mifuu
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

数々の女性アイドル楽曲の作詞作曲、編曲、サウンドプロデュース、楽曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

オリジナル曲の制作に必要な音楽知識やコツを習得しながら、クオリティの高い楽曲を制作します。講師がサウンドプロデューサー、生徒がアーティストという立場でレコーディングを通してアレンジやボーカルディレクションも併せてアドバイスします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オリジナルの楽曲を 2 曲制作します。1 年次よりもスキルアップした楽曲制作を目指します。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① オリエンテーション
- ② オリジナル楽曲 1 曲目のコンセプトを定める
- ③ 楽曲制作 1～メロディ、フル尺での構成
- ④ 楽曲制作 2～歌詞のチェック
- ⑤ 楽曲制作 3～アレンジ
- ⑥ 楽器のレコーディング
- ⑦ ボーカルレコーディング

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業内での取り組み姿勢

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧ オリジナル楽曲 2 曲目のコンセプトを定める

- ⑨ 楽曲制作 1～メロディ、フル尺での構成
- ⑩ 楽曲制作 2～歌詞のチェック
- ⑪ 楽曲制作 3～アレンジ
- ⑫ 楽器のレコーディング
- ⑬ ボーカルレコーディング
- ⑭ ハモリのレコーディング
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅢ
担当講師名	YASS
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

多くのアーティストの発掘・育成・プロデュースをしてきました。
 これまで数十組、楽曲制作とアーティストブランディングをし、メジャーデビューさせました。

授業内容

一年生でやってきたクリエイティブな作業をベースに、よりプロレベルな表現・楽曲作りをする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

フックのあるオリジナル楽曲を作成する。
 人の心を掴み、噂になる歌を作る。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アーティストマップの作成。2年生になった時点での、表現したい音楽、目指すアーティスト、やりたい自分のスタイルなどをマップに落とし込みます。
- ② 歌詞のテーマを決めよう。ワードをストックする。普段から気になった言葉をメモさせます。テーマを選んで歌詞を書きます。
- ③ 曲の方向性を定める。ジャンルや曲調、リズムやテンポを決めます。アーティストとしてのスタイルを再確認してアプローチします。
- ④ 作曲しよう。方向性が見えたら作曲を開始。2年生なので、まずは自分の今日作りパターンをやってもらいます。メロディと歌詞を同時に進行していきます。
- ⑤ コードを確認。メロディと歌詞をブラッシュアップ。コードを確認していきます。
- ⑥ 伝えたいメッセージや、聴かせたいサウンドの志向を定めよう。たくさんの資料楽曲を試聴します。
- ⑦ 試験（メロディと歌詞を完成させ仮レコーディングします）

中間試験評価方法・評価基準

・オリジナル作品の評価 完成度 個性

- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲をより自分のモノにするために反復パフォーマンスをする。弾き語り、もしくはオケでの歌唱をトレーニング。
- ⑨ レコーディング。メロディライン、歌詞のリズムノリなどをチェック。録音した歌を自分で聴いてセルフディレクションをする。イメージとリアルの間を埋める作業。
- ⑩ コードの再確認。言葉のブラッシュアップをする。
- ⑪ アレンジメント。曲に対するサウンドアプローチを決める。アーティストマップと照らし合わせながらサウンドの方向性を定めよう。
- ⑫ 歌と楽器の表現力をアップするためのベーシックトレーニングをする。
- ⑬ 本レコーディング 1.声質、声のノリをチェック。歌のニュアンス、プレスポイント、発声や表現方法を確認する。ワンセンテンスごとに確定していく。
- ⑭ レコーディング 2.オケをレコーディングする。自分の演奏を録る。タッチ、アタック感、グルーブ感を意識。
- ⑮ 試験（歌の本番レコーディングをする。ピッチ、リズム、発声、声の質感、ニュアンス、全てにおいての現時点でのベストテイクを録る。作品の完成をもって試験とします）

期末試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅢ
担当講師名	崎谷健次郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関連する実務経歴

芸能界、音楽業界においてアーティスト、シンガーソングライターとして34年、作曲、編曲プロデューサーとして36年活動する。

授業内容

オンラインによる楽曲制作やボーカルなど総合的にアドバイス、同時に音楽制作をする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学生さんが一年で音楽の理解を深め、その結果として最後に私がアレンジをしてオリジナル曲を仕上げる。自己プロモーションになる楽曲を仕上げる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 生徒さんのオリジナル曲を聞きアドバイス、今後の計画を立てる
- ② ペットボトル発声法の実践①
- ③ ペットボトル発声法の実践②
- ④ 創造的な曲作りの講義 それぞれのレベルに合わせて①
- ⑤ 創造的な曲作りの講義 それぞれのレベルに合わせて②
- ⑥ 発声法の心得①
- ⑦ 発声法の心得②

中間試験評価方法・評価基準

それぞれのボーカルの弱点を克服する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ 作詞法の定義①
- ⑩ 作詞法の定義②
- ⑪ オリジナル曲を聞き、進捗に合わせてアドバイス①
- ⑫ オリジナル曲を聞き、進捗に合わせてアドバイス②

- ⑬ プロにおける実際の環境講義
- ⑭ 生徒さんの春季のオリジナル曲にアレンジを施し手渡し、録音の手順を説明
- ⑮ 録音してあがってきたものにアドバイス
- ⑯ 録音を仕上げたものに、最終的なジャッジ。
- ⑰ 春季のまとめ総評

期末試験評価方法・評価基準

特記事項

オンライン授業は始まりまでのセッティングに時間がかかる場合が多いので、スムーズな部屋への移動やパソコン環境の設定が望まれます。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅣ
担当講師名	芦澤和則
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

SSW 専攻／オリジナル曲にアレンジを施しレコーディング+MIX を学びます。
B. Vo 専攻／各々の専攻実技で受講しているカバー曲を中心にレコーディングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

SSW 専攻／オーディション、業界配布を想定した音源作りに役立てます。
B. Vo 専攻／録音物で自分の Vo をチェックしレベルアップに役立てます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①目標設定
- ②楽曲選考、アレンジメント
- ③レコーディング C-1
- ④レコーディング C-2
- ⑤レコーディング C-3
- ⑥ミックス
- ⑦中間試験（MIX）

中間試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。
出席:50% 平常点:30% 試験:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧目標設定
- ⑨楽曲選考、アレンジメント

- ⑩レコーディング D-1
- ⑪レコーディング D-2
- ⑫レコーディング D-3
- ⑬ミックス
- ⑭マスタリング
- ⑮期末試験 (MIX)

期末試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。
出席:50% 平常点:30% 試験:20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクション IV
担当講師名	前田基彦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。

授業内容

レコーディングスタジオにおいて必要な知識を習得する授業です。ミュージシャン、プレイヤーとして無くてはならないレコーディングにおける必要知識（キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル等）を、近年主要国の音楽チャートに入った楽曲を題材に学んでいきます。また、最近の楽曲のアレンジを研究、演奏することで授業外での活動（バンドやアレンジ等）のヒントとなるように解説、指導します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディング習慣の習得、キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①楽曲1発表、楽譜作成を指導します
- ②実演方法確認作業を対面で行います。
- ③演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ④楽曲2発表、楽譜作成を指導します
- ⑤実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑥演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ⑦楽曲3発表、楽譜作成を指導します

中間試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、レポート（譜面作成スキル）30%、欠席や遅刻の有無10%、受講態度や積極性10%で算出致します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑨演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ⑩楽曲4発表、楽譜作成を指導します
- ⑪実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑫演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト
- ⑬楽曲5発表、楽譜作成を指導します
- ⑭実演方法確認作業を対面で行います。
- ⑮演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト

期末試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キューボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、 レポート（譜面作成スキル）30%、 欠席や遅刻の有無30%、 受講態度や積極性10%で算出致します。

特記事項

なし

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅣ
担当講師名	mifuu
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

数々の女性アイドル楽曲の作詞作曲、編曲、サウンドプロデュース、楽曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

オリジナル曲の制作に必要な音楽知識やコツを習得しながら、クオリティの高い楽曲を制作します。講師がサウンドプロデューサー、生徒がアーティストという立場でレコーディングを通してアレンジやボーカルディレクションも併せてアドバイスします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オリジナルの楽曲を2曲制作します。春学期よりもスキルアップした楽曲制作を目指し、2年間の集大成の楽曲になるよう、クオリティを追求します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリジナル楽曲3曲目のコンセプトを定める
- ② 楽曲制作1～メロディ、フル尺での構成
- ③ 楽曲制作2～歌詞のチェック
- ④ 楽曲制作3～アレンジ
- ⑤ 楽器のレコーディング
- ⑥ ボーカルレコーディング
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業内での取り組み姿勢

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリジナル楽曲4曲目のコンセプトを定める

- ⑨ 楽曲制作 1～メロディ、フル尺での構成
- ⑩ 楽曲制作 2～歌詞のチェック
- ⑪ 楽曲制作 3～アレンジ
- ⑫ 楽器のレコーディング
- ⑬ ボーカルレコーディング
- ⑭ ハモリのレコーディング
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションIV
担当講師名	YASS
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

多くのアーティストの発掘・育成・プロデュースをしてきました。
 これまで数十組、楽曲制作とアーティストブランディングをし、メジャーデビューさせました。

授業内容

アーティストとして世の中に出て行くための楽曲作りを意識する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

one&only(個性的)で、尚且つポピュラリティも共存する楽曲作りを目指します。
 音楽業界に売り込める名曲を完成させる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アーティストマップを再度確認。今、目指してる方向性、アーティスト性に関して客観的に考察。
- ② 春期にレコーディングした楽曲を分析してみよう。
- ③ 歌を再度 REC します。その際、歌詞とメロディをブラッシュアップ。プロレベルのクリエイティブティを意識しよう。
- ④ 新しい曲作り。作詞・作曲。言葉とメロディを紡いでみよう。
- ⑤ 新しい曲作り 2。言葉とメロディのオリジナリティを大切にしよう。
- ⑥ メロディ、歌詞を完成させる。音域や声質を十分に意識しながら効果的なライン、ワードを choice する。
- ⑦ 試験（楽曲をパフォーマンスしてもらいます）

中間試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 仮歌を録る。シンプル内容コード楽器(ギター、ピアノ等)のみで一発録音。現時点でのメロディライン、歌詞のリズムノリなどをチェック。録音した歌を自分で聴いて、再度セルフディレクションをする。
- ⑨ 楽曲のブラッシュアップ。歌詞、メロディなどをさらにレベルアップさせる。コード感、曲構成の再確認。
- ⑩ アレンジ。曲に対するサウンドアプローチをイメージする。新アーティストマップと照らし合わせながら方向性を決定。
- ⑪ 歌のニュアンス、プレスポイント、発声や表現方法を確認する。ワンセンテンスごとに確定していく。
- ⑫ レコーディング 1. オケ録り。ベーシクトラックを作る。ジャンルによって方法は様々だが、構成力やバランス力の必要を学ぶ。
- ⑬ レコーディング 2. リズム、クリックに合わせてギター、ピアノ等をプレイする。生楽器のRECによって、グルーブとは何かを感じ学ぼう。
- ⑭ 歌レコーディング 3. ピッチ、リズム、発声、声の質感、ニュアンス、全てにおいてのベストテイクを目指してRECする。1年生で学んだモニタリングを活かす。
- ⑮ 試験（ダビングREC。声を重ねて、メインヴォーカルにハモリ、ダブリ、コーラスを入れてみよう。自分自身の歌をより把握することが大切です。楽曲の完成をもって試験とします）

期末試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅣ
担当講師名	崎谷健次郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関連する実務経歴

芸能界、音楽業界においてアーティスト、シンガーソングライターとして34年、作曲、編曲プロデューサーとして36年活動する。

授業内容

オンラインによる楽曲制作やボーカルなど総合的にアドバイス、同時に音楽制作をする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学生さんが一年で音楽の理解を深め、その結果として最後に私がアレンジをしてオリジナル曲を仕上げる。自己プロモーションになる楽曲を仕上げる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 秋季オリジナル曲の制作説明
- ② 作詞家プレゼン曲の提示説明
- ③ 秋季オリジナル楽曲を制作
- ④ 作詞家プレゼン曲の制作
- ⑤ オリジナル作曲の定義
- ⑥ 作詞コンペの実情の説明
- ⑦ オリジナル作品デモと作詞プレゼン曲を仕上げる

中間試験評価方法・評価基準

楽曲制作の概念を身に着ける。作詞家としてのプレゼンシミュレーションで作詞スキルを身に着ける。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリジナル曲の歌練習
- ⑨ 作詞シミュレーションの歌練習

- ⑩ オリジナル楽曲の最終調整終える
- ⑪ アレンジにかかる前にアレンジイメージを話し合い決定する
- ⑫ 生徒さんのオリジナル曲にアレンジを施し手渡し、録音の手順を説明
- ⑬ オリジナル曲と作詞プレゼン曲に録音してあがってきたものにアドバイス
- ⑭ 録音を仕上げたものに、最終的なジャッジ、一年のまとめ。
- ⑮ 総評、時代をにらみ卒業後の活動へのアドバイス

期末試験評価方法・評価基準

特記事項

オンライン授業は始まりまでのセッティングに時間がかかる場合が多いので、スムーズな部屋への移動やパソコン環境の設定が望まれます。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞Ⅲ
担当講師名	轟 光太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽プロダクションにて新人アーティストの作詞ディレクションの実務経験を持ちます

授業内容

作詞が出来るというだけでは無く、そこに付随する作詞家の魅力や、商業的な手法も学び、作詞への造詣を深める

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

作詞の中に作家性、商業性を活かせるシンガーソングライター

授業計画（1回目から7回目）

- ① 作詞のセオリー ～作詞の仕組みを復習～
- ② 春の作詞① ～春に付随するテーマの作詞～
- ③ 春の作詞② ～CMなど、戦略的に使える作詞～
- ④ 作詞家研究① ～著名な作詞家の作品を研究する～
- ⑤ 作詞家研究② ～作詞家の手法を模倣して作詞してみる～
- ⑥ 模擬試験 ～試験テーマ発表～模擬試験～
- ⑦ 試験 ～作品提出～

中間試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（オーダーされたテーマの作詞ができているか？）
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1Q 試験返却 ～試験提出作品の復習～
- ⑨ 記憶に残る言葉 ～比喩の効果的な使い方～

- ⑩ 企業キャッチコピー① ～企業キャッチコピー研究～
- ⑪ 企業キャッチコピー② ～キャッチコピーを作ってみる～
- ⑫ 夏の作詞① ～夏に付随するテーマの作詞～
- ⑬ 夏の作詞② ～CMなど、戦略的に使える作詞～
- ⑭ 模擬試験 ～試験テーマ発表～模擬試験～
- ⑮ 試験 ～作品提出～

期末試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（オーダーされたテーマの作詞ができているか？）
- ・授業の取り組み態度
- ・成長度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞Ⅲ
担当講師名	マチーデフ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はラップアーティスト、作詞家としての経験に基づいて講義を行います。

授業内容

韻を効果的に用いた作詞法を身に付けます。またグループワークを行い共同作詞(コーライティング)のスキルを身に付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

- ・押韻を主とした作詞法の習得。
- ・自分らしい言葉選び、ボキャブラリーの自覚。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①自己紹介、韻の発想
- ②J-POPに潜む押韻
- ③洋楽に潜む韻
- ④押韻テクニック(基礎)
- ⑤押韻テクニック(応用)
- ⑥韻の発想力の強化
- ⑦韻の理解度を確認

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：筆記テスト

評価基準：授業の出席率 70% 筆記テストの結果：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧韻を意識した作詞法
- ⑨韻を意識した作詞の実践

- ⑩テーマに沿った作詞
- ⑪日常の出来事の歌詞化
- ⑫日常の出来事の歌詞化
- ⑬共同作詞
- ⑭共同作詞 2
- ⑮ストーリー展開のある作詞

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：作詞した歌詞の提出

評価基準：授業の出席率 70% 提出物：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞IV
担当講師名	轟 光太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽プロダクションにて新人アーティストの作詞ディレクションの実務経験を持ちます

授業内容

1Q、2Q で学んだ知識を活かしての作詞、表現力の可能性を広げる

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

作詞の中に作家性、商業性を活かせるシンガーソングライター

授業計画（1回目から7回目）

- ① 2Q 試験返却 ～試験提出作品の復習～
- ② 秋の作詞① ～秋に付随するテーマの作詞～
- ③ 秋の作詞② ～CMなど、戦略的に使える作詞～
- ④ 作詞家研究① ～著名な作詞家の作品を研究する～
- ⑤ 作詞家研究② ～作詞家の手法を模倣して作詞してみる～
- ⑥ 模擬試験 ～試験テーマ発表～模擬試験～
- ⑦ 試験 ～作品提出～

中間試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（オーダーされたテーマの作詞ができているか？）
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3Q 試験返却 ～試験提出作品の復習～
- ⑨ 作詞家研究① ～著名な作詞家の作品を研究する～

- ⑩ 作詞家研究② ～作詞家の手法を模倣して作詞してみる～
- ⑪ 冬の作詞① ～冬に付随するテーマの作詞～
- ⑫ クリスマスのCMソング ～クリスマスがテーマの楽曲研究～
- ⑬ 冬の作詞② ～CMなど、戦略的に使える作詞～
- ⑭ 模擬試験 ～試験テーマ発表～模擬試験～
- ⑮ 試験 ～作品提出～

期末試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（オーダーされたテーマの作詞ができているか？）
- ・授業の取り組み態度
- ・成長度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞IV
担当講師名	マチーデフ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はラップアーティスト、作詞家としての経験に基づいて講義を行います。

授業内容

様々な角度から既存局の歌詞を考察し、作詞の構成力を身に付けます。
また作詞受注のシミュレーションを行い、クライアントのリクエストに応える作詞力を身に付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・ 作詞の構成力の向上。
- ・ 歌詞の発想力の向上。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ストーリーの流れを意識した作詞
- ②ストーリーの流れを意識した作詞 2
- ③韻の発想力の強化 2
- ④韻の発想力の強化 3
- ⑤歌詞を組み立てる力の強化
- ⑥歌詞を組み立てる力の強化 2
- ⑦感性、センスの違いの自覚

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：作詞した歌詞の提出

評価基準：授業の出席率 70% 提出物：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作詞受注シミュレーション

- ⑨作詞受注シミュレーション 2
- ⑩構成力トレーニング
- ⑪構成力トレーニング 2
- ⑫イマジネーションの拡大化
- ⑬イマジネーションの拡大化 2
- ⑭作詞ビジネスについて
- ⑮作詞ビジネスについて 2

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：作詞した歌詞の提出

評価基準：授業の出席率 70% 提出物：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コーラスワーク I
担当講師名	石橋誠章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロミュージシャンとして活動。ヴォイストレーナー歴 20 年の実務経験を持ちます。

授業内容

歌唱力のスキルアップを図るためのヴォイストレーニング。コーラス曲を歌うことにより、音感・ハーモニー感覚・アンサンブル力を身に付けていきます。

美しくハモるための基礎力を鍛え、ユニゾンボーカルから 3 声のハーモニーまで練習していきます。

課題曲は男女比率・声域・能力などを考慮の上、選曲します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

他の声部に惑わされることなく、自身のメロディラインが歌えるように。

3 声のコーラスを綺麗にハモることができるように。

基本的な歌唱力が上がることで、コーラスも上達していきます。

自分の弱点を把握し、自分に合った効果的なトレーニング方法を覚えて習慣にしましょう。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① オリエンテーション・ヴォイストレーニング・音域チェック
- ② ヴォイストレーニング・ハーモニー練習
- ③ ユニゾンボーカル（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ④ デュエット曲（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑤ デュエット曲（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑥ デュエット曲（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑦ 中間試験：課題曲の歌唱

中間試験評価方法・評価基準

課題曲をグループに分かれて歌唱。

実際にトレーニングすることが大切な授業です。
よって授業への参加姿勢、上達度を重視します。ヴォイストレーニング
出席：50% 平常点：20% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 2声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑨ 2声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑩ 2声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑪ 3声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑫ 3声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑬ 3声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑭ 3声のハーモニー（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑮ 期末試験：課題曲の歌唱

期末試験評価方法・評価基準

課題曲をグループに分かれて歌唱。
実際にトレーニングすることが大切な授業です。
よって授業への参加姿勢、上達度を重視します。
出席：50% 平常点：20% 試験：30%

特記事項

感染症予防対策のため、マイマイクの使用を推奨します。
動きやすい服装で参加してください。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コーラスワークⅡ
担当講師名	石橋誠章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロミュージシャンとして活動。ヴォイストレーナー歴 20 年の実務経験を持ちます。

授業内容

歌唱力のスキルアップを図るためのヴォイストレーニング。コーラス曲を歌うことにより、音感・ハーモニー感覚・アンサンブル力を身に付けていきます。個性を存分に活かせる正しく効率的な発声法・発音法を身につけ、コーラスに生かしましょう。課題曲は男女比率・声域・能力などを考慮の上、選曲します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期は、コーラスのバリエーションを増やし、多様なジャンルへの対応力、表現力を付けることを目標にしていきます。正確なピッチ・リズムは勿論のこと、アーティキュレーションを揃えたり、グルーブ感を出すことも意識しましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ウーアーコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ② スキヤット（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ③ 追っかけコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ④ ドゥワーップコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑤ ドゥワーップコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑥ ドゥワーップコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑦ 中間試験：課題曲の歌唱

中間試験評価方法・評価基準

課題曲をグループに分かれて歌唱。
実際にトレーニングすることが大切な授業です。
よって授業への参加姿勢、上達度を重視します。

出席：50% 平常点：20% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ゴスペル風コーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑨ ゴスペル風コーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑩ ゴスペル風コーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑪ ゴスペル風コーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑫ アカペラコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑬ アカペラコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑭ アカペラコーラス（課題曲の歌唱実習）・ヴォイストレーニング
- ⑮ 期末試験：課題曲の歌唱

期末試験評価方法・評価基準

課題曲をグループに分かれて歌唱。
実際にトレーニングすることが大切な授業です。
よって授業への参加姿勢、上達度を重視します。
出席：50% 平常点：20% 試験：30%

特記事項

感染症予防対策のため、マイマイクの使用を推奨します。
動きやすい服装で参加してください。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅢ (R&B・ゴスペル)
担当講師名	長沼敬子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は、専門学校・テーマパーク・ミュージカル・演劇業界でのヴォイストレーナーとして32年の経歴を持ちます。

授業内容

正しい発声法を学びながら、スケール課題(ダンノーゼルのソルフェージュ)を視唱し、正確な音程とリズムを体得します。1960年代以降のR&B・ゴスペルを中心に洋楽を歌唱します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

呼吸・姿勢・声帯の状態を上手くコントロールし、各々の発声の課題を解決します。洋楽を学ぶことによって、楽曲の抑揚やビートの表現法を身につけます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①各学生の発声の問題点を指摘し、練習法を指導します。
- ②ダンノーゼルNo.10の視唱、講師が提示した数曲の課題曲を発表・視聴します。
- ③ダンノーゼルNo.11の視唱、各学生が課題曲の決定をします。
- ④ダンノーゼルNo.12の視唱、課題曲の歌唱を指導します。
- ⑤ダンノーゼルNo.13の視唱、課題曲の音程・発声を主に指導します。
- ⑥ダンノーゼルNo.14の視唱、課題曲のリズム・抑揚を指導し、仕上げます。
- ⑦ダンノーゼルNo.10～14の視唱、課題曲の独唱発表をします。

中間試験評価方法・評価基準

「ダンノーゼルのソルフェージュ」No.10～14と、各学生の課題曲を独唱します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ダンノーゼルNo.15の視唱、各学生と自由曲の選曲をします。
- ⑨ダンノーゼルNo.16の視唱、各学生の自由曲を決定します。
- ⑩ダンノーゼルNo.17の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(音程・発声)
- ⑪ダンノーゼルNo.18の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(リズム・グルーブ)
- ⑫ダンノーゼルNo.19の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(ダイナミックス・抑揚)
- ⑬ダンノーゼルNo.20の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(細部のチェック)
- ⑭ダンノーゼルNo.21の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(まとめ)
- ⑮ダンノーゼルNo.15～21の視唱、自由曲の独唱発表をします。

期末試験評価方法・評価基準

「ダンノーゼルのソルフェージュ」No.15～21と、各学生の自由曲を独唱します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%を併せ評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅣ (R&B・ゴスペル)
担当講師名	長沼敬子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は、専門学校・テーマパーク・ミュージカル・演劇業界でのヴォイストレーナーとして32年の経歴を持ちます。

授業内容

ソルフェージュ課題から、より難易度の高い音程・リズムを正確に歌唱することを体得します。R&B・ゴスペルの合唱曲を用い、ヴォーカルアンサンブル面を強化します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合唱曲を学ぶことにより、各自の正確な音程の維持と、ハーモニーでのアンサンブルの表現を身につけます。R&B・ゴスペルの楽曲で、16ビートのフレーズとフェイクの表現技法を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ダンノーゼルNo.22の視唱、各学生と自由曲の選曲をします(オリジナルを含む)
- ②ダンノーゼルNo.23の視唱、各学生の自由曲を決定します。
- ③ダンノーゼルNo.24の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(音程・発声)
- ④ダンノーゼルNo.25の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(リズム・グルーブ)
- ⑤ダンノーゼルNo.26の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(ダイナミックス・抑揚)
- ⑥ダンノーゼルNo.27の視唱、自由曲の歌唱指導をします。(細部のチェック)
- ⑦ダンノーゼルNo.22～27の視唱、自由曲の独唱発表をします。

中間試験評価方法・評価基準

「ダンノーゼルのソルフェージュ」No.22～27の独唱と各学生の自由を独唱します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ダンノーゼルNo.28の視唱、合唱曲の選曲をします。(Joyful Joyful、Oh Happy Day)
- ⑨ダンノーゼルNo.29の視唱、合唱曲を決定し、パートを決めます。(三部合唱)
- ⑩ダンノーゼルNo.30の視唱、合唱曲の各パートの音取りをします。
- ⑪ダンノーゼルNo.31の視唱、合唱曲の各パートの音取りをします。
- ⑫ダンノーゼルNo.32の視唱、合唱曲の各パートのチェックと合わせをします。
- ⑬ダンノーゼルNo.33の視唱、合唱曲を全員で合わせ、ダイナミックスや抑揚を指導をします。
- ⑭ダンノーゼルNo.34の視唱、合唱曲を全員で合わせ、ダイナミックスや抑揚を指導をします。
- ⑮ダンノーゼルNo.28～34の独唱と合唱曲の各パート独唱と全員合唱をします。

期末試験評価方法・評価基準

「ダンノーゼルのソルフェージュ」No.28～34の独唱と合唱曲の各パート独唱と全員合唱を併せて評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅢ（ロック&ポップス）
担当講師名	嶋村祐子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はヴォイストレーナーヴォイストレーナーとしてSONY MUSICや東宝芸能などでの新人育成や俳優、タレントへのプライベートレッスンなど数多くの指導実績があります。

授業内容

ヴォーカリストは身体が楽器です。自分本来の声を磨き安定した基礎を土台として歌の可能性を広げるためにトレーニングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

歌の土台となる基礎の定着と応用。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション。自己紹介。
- ②歌での自己紹介。各自カバー曲またはオリジナル曲歌唱。
- ③歌のウォーミングアップとメンテナンス。
- ④腹式呼吸。胸式呼吸。横隔膜呼吸。
- ⑤下顎のリラックス。上顎、口蓋への意識。
- ⑥表情筋。口輪筋。
- ⑦授業内ライブと録画。

中間試験評価方法・評価基準

楽器としての自覚が歌うときにも自然に意識されてクオリティーと表現につながっているかを評価します。

出席率50% 平常点20% 試験30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧響くポイントSWEET SPOTについて(1)

- ⑨響くポイントSWEET SPOTについて(2)
- ⑩歌への応用(1)
- ⑪歌への応用(2)
- ⑫子音で母音を飛ばす(1)
- ⑬子音で母音を飛ばす(2)
- ⑭歌への応用。
- ⑮授業内ライブと録画。

期末試験評価方法・評価基準

歌詞が伝わるためには安定した声の響きが不可欠です。授業でトレーニングした響く声が歌で自然に使われているかを評価します。
出席率40% 平常点30% 試験30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅣ（ロック&ポップス）
担当講師名	嶋村祐子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はヴォイストレーナーヴォイストレーナーとしてSONY MUSICや東宝芸能などでの新人育成や俳優、タレントへのプライベートレッスンなど数多くの指導実績があります。

授業内容

安定したクオリティーをさらに磨き、声の魅力とオリジナル曲の可能性を広げて行きます。ステージに立つ意識も力まずに育てていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上手さの先に広がる自分の可能性に気づき、心から歌うことを楽しみましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①横隔膜呼吸の再確認。
- ②楽曲での応用。
- ③滑らかにつながる全ての音域(1)
- ④滑らかにつながる全ての音域(2)
- ⑤楽曲での応用。
- ⑥ファルセットヴォイスとミックスヴォイスの強化。
- ⑦授業内ライブと録画。

中間試験評価方法・評価基準

ライブ感を持って毎回の授業に参加し、中間試験の授業内ライブにつなげているかを評価します。

出席率30% 平常点30% 試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧横に流れるメロディーラインと縦に刻まれるリズム(1)
- ⑨横に流れるメロディーラインと縦に刻まれるリズム(2)
- ⑩GROOVEとは。
- ⑪GROOVEが歌の全てをまとめる鍵。
- ⑫楽曲での理解(1)
- ⑬楽曲での理解(2)
- ⑭卒業後に一人で続けるトレーニングの再確認。
- ⑮授業ないライブと録画。

期末試験評価方法・評価基準

ライブ感とクオリティーのバランスを評価します。みんなを楽しませてください。
出席率20% 平常点20% 試験60%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅢ(ラップ&DJ)
担当講師名	マチーデフ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画やテレビ番組、CM等のエンターテインメント業界でラップ指導の実務経験を持ちます。

授業内容

ラップのリズムを体系的に分類し、発声、歌唱することでリズムを捉える感覚を磨きます。最初は簡単な譜割りの曲で基礎を学び、徐々に難しい譜割りの曲へとレベルアップしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・抑揚やアクセントの付け方を学び、ラップの歌唱力向上を目標とします。
- ・様々なリズムを習得し、リズム感の向上を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①自己紹介、歌とラップの違い 2
- ②リズムの種類 2
- ③ウラ拍を捉えるリズムトレーニング 3
- ④ウラ拍を捉えるリズムトレーニング 4
- ⑤3連符のリズムトレーニング 2
- ⑥6連符のリズムトレーニング 2
- ⑦16分刻みのリズム 2

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧2人でかけ合いラップ 3
- ⑨2人でかけ合いラップ 4
- ⑩3人でかけ合いラップ 3
- ⑪3人でかけ合いラップ 4
- ⑫母音を省略するラップ 3
- ⑬母音を省略するラップ 4
- ⑭倍速ラップ 3
- ⑮倍速ラップ 4

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅣ(ラップ&DJ)
担当講師名	マチャーデフ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画やテレビ番組、CM等のエンターテインメント業界でラップ指導の実務経験を持ちます。

授業内容

譜割りの複雑なラップ曲に挑戦し、よりテクニカルな歌唱力を身に付けます。
また、DJ体験やオリジナルラップの制作も行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・音の省略の仕方を学び、ビートキープ力を身に付け、ラップの歌唱力向上を目標とします。
- ・より難易度の高いリズムを習得し、リズム感の向上を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①無声音を使ったラップ 2
- ②特徴的な発音のラップ 2
- ③アクセントの強弱 3
- ④アクセントの強弱 4
- ⑤メロディーのあるラップ 4
- ⑥メロディーのあるラップ 5
- ⑦メロディーのあるラップ 6

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テクニカルなラップ 4
- ⑨テクニカルなラップ 5
- ⑩テクニカルなラップ 6
- ⑪DJ 体験 2
- ⑫韻の踏み方 3
- ⑬韻の踏み方 4
- ⑭オリジナルラップの作詞 2
- ⑮オリジナルラップの披露 2

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニングⅢ (キーボード)
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

基礎のスケールは右手と左手のスピードを変えて弾く練習になります。課題曲の譜面は、メロディーとコードだけ書いてある一段譜、コードとメロディーだけを見て弾けるようになるのが2年次での課題です。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

春楽器の課題はラテンです。前半はチャチャやマンボ、後半はボサノバやサンバのリズムを弾きます。両手ユニゾンにもチャレンジ、リズムのノリをしっかり身につけていくのが目標です。もちろんどんどんアドリブにもチャレンジしていきますよ。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①右手左手のスピードを変えての弾き方を覚える。ラテンの曲。
- ②毎回違ったラテンの曲をどんどん弾きます。
- ③ゆっくりの曲、速い曲の弾き方を考えてみましょう。
- ④ユニゾン演奏、意外と左手が難しくなります。
- ⑤できる方は、2オクターブユニゾンにチャレンジしましょう。
- ⑥余裕ができたなら、掛け声も出してみましょう。
- ⑦楽しくノって弾くこと。

中間試験評価方法・評価基準

出席を重視します。普段の取り組みがしっかりしていれば、自然に、その人なりに弾けるようになるはず、のびのびと楽しんで弾くこと。チェックのポイントは、メロディーのリズムの取り方です。出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧2分の2のリズムにしっかり乗って演奏します。コードはシンプルに押さえます。
- ⑨慣れてきたら、メロディーに合わせてコードも動くように弾きます。
- ⑩アドリブ練習。とにかくリズムを楽しんで弾きましょう。
- ⑪基本は8ビートです。コードも少し難しくなるので、出来るだけシンプルに、ゆったり押さえます。
- ⑫慣れてきたら、メロディーの合間にコードを入れて弾いてみましょう。
- ⑬アドリブ練習。右手と左手が、会話するように弾いてみましょう。
- ⑭課題曲を練習、何度も繰り返して、コツをつかみましょう。
- ⑮テーマをしっかりと、コードはシンプルに、リズムもゆったりと弾きましょう。アドリブにもチャレンジ。

期末試験評価方法・評価基準

テーマ・アドリブ・テーマの構成で、メリハリをつけて演奏しましょう。タッチがしっかりしているか、ビートにのって演奏しているかをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験40%

特記事項

もし、自宅にキーボードが有れば練習してみてください。キーボードが無くても、授業内でしっかり練習すれば上手になりますよ。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニング I (ギター)
担当講師名	稲葉智
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

音楽業界にて様々なセッション、レコーディング等を経験、自己のバンドでのメジャーデビューの経験を持ちます。

授業内容

1クォーターでは8ビート、2クォーターではシャッフルのリズムの楽曲を中心にストロークの演奏、シングルノートの演奏の視点から課題曲のベーシックな演奏を学びます。同時に楽曲に応じた基本的なギター演奏動作をしっかりと学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なリズム、ジャンルでの楽曲の演奏を学ぶ事で自身のリズム感、演奏力の向上を目指します。
また、基本的なギター演奏動作を確認しながら様々なフレーズへの対応を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 8ビートの課題曲1、コードストロークによる演奏動作を確認、習得します。
- ② 8ビートの課題曲1、①を基に更に深くシングルノートの演奏等を習得します。
- ③ 8ビートの課題曲1、②を基に更に深い演奏、ソロパートの解釈とその演奏等を習得します。
- ④ 8ビートの課題曲2、課題曲にあったコードストロークによる演奏を確認、習得します。
- ⑤ 8ビートの課題曲2、④を基に更に深い演奏、メロディー等の演奏を習得します。
- ⑥ 8ビートの課題曲2、⑤を基に更に深くソロパートのスケール解釈やその演奏を習得します。
- ⑦ 課題曲の中からクォーター末試験を実技で行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%
課題曲をよく理解し、ストロークプレイ、シングルノートプレイに於いてしっかりとした

演奏が出来ているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シャッフルの課題曲 1、コードストロークによる演奏動作を確認、習得します。
- ⑨ シャッフルの課題曲 1、⑧を基に更に深くシングルノートのフレーズ演奏等を習得します。
- ⑩ シャッフルの課題曲 1、⑨を基に更に深い演奏、ソロパートの解釈とその演奏等を習得します。
- ⑪ 3連のリズムの課題曲 2、課題曲にあったコードストロークによる演奏を確認、習得します。
- ⑫ 3連のリズムの課題曲 2、⑪を基に更に深い演奏、メロディー等の演奏を習得します。
- ⑬ 3連のリズムの課題曲 2、⑫を基に更に深くソロパートのスケール解釈やその演奏を習得します。
- ⑭ 試験に向けての課題曲の練習、基本テクニックの確認をします。
- ⑮ 課題曲の中からクォーター末試験を実技で行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、ストロークプレイ、シングルノートプレイに於いてしっかりとした演奏が出来ているかを評価します。

特記事項

次の授業の前にしっかりと前の授業の復習をしておいて下さい。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニングⅣ（キーボード）
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

イントロ・テーマ・アドリブ・エンディングをキーボードでリードしていく演奏を目指します。ビートのとらえ方を工夫して、一曲を完成させていく弾き方を学習しましょう。また、基礎力をつけるため、ジャズのスタンダードナンバーにもチャレンジします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

おいしいイントロを演奏するためにはどう考えるか、また、エンディングをキーボードでリードしていくためにはどうすればいいか、少し理論も勉強します。課題曲はますますチャレンジングになります。2年次も、季節のスタンダードなクリスマスソングを楽しんで弾きましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①いろいろなブルースを弾いてみましょう。まずは、ミディアムテンポで。
- ②ゆったりとしたブルージーなブルース、ソロピアノで弾けるとかっこいいですね。
- ③コードをしっかり弾くことが基本です。まず、左手でしっかり押さえる練習をします。
- ④テーマのメロディーの弾き方を考えます。メロディーやリズムをフェイクして、かっこよく弾きましょう。
- ⑤アドリブにチャレンジ。使う音も大事ですが、リズムがとても重要になってきます。
- ⑥何度でも繰り返して練習しましょう。かっこいいアドリブも！
- ⑦テーマやアドリブ、自分の個性を大切に弾いてください。

中間試験評価方法・評価基準

テーマをしっかり弾いて、アドリブにもどんどんチャレンジ。使っている音、かっこいいスケールなど、毎回の練習で得たものを一つでも演奏できたらベリーグッドです！

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧クリスマススタンダードナンバーを弾きます。
- ⑨クリスマススタンダードナンバーを伴奏するための弾き方を考えます。
- ⑩クリスマスソングをソロピアノで弾きます。
- ⑪簡単なマイナーキーのスタンダードナンバーを、メロディーとコードをしっかりと弾きます。
- ⑫64小節の曲にチャレンジ。まずテーマをしっかりと弾く練習をします。
- ⑬上記の曲、アドリブ部分を練習、テーマとは違うコード進行になる場所も注意しましょう。
- ⑭とにかく練習、何度も弾くことで、少しずつでも前進していきましょう。
- ⑮弾き方や音色、ダイナミクスも表現してください。

期末試験評価方法・評価基準

かなり難しい曲に取り組んできました。日頃の成果を発揮して、まずはとにかくテーマをしっかりと、そしてアドリブにも楽しんでチャレンジしたかを評価していきます。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

これからもキーボード演奏楽しんで続けてください。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニングⅣ(ギター)
担当講師名	稲葉智
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

音楽業界にて様々なセッション、レコーディング等を経験、自己のバンドでのメジャーデビューの経験を持ちます。

授業内容

3クォーターでは16ビート、4クォーターではアルペジオを使った楽曲を中心にストロークの演奏、アルペジオの演奏を課題曲から学びます。同時に楽曲に応じた基本的なギター演奏動作、特に右指の使い方をしっかりと学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なジャンルでの楽曲の演奏を学ぶ事で自身のリズム感、演奏力の向上を目指します。また、基本的なギター演奏動作を確認しながら様々なフレーズへの対応を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 16ビートの課題曲1、コードストロークによる演奏動作を確認、習得します。
- ② 16ビートの課題曲1、①を基に更に深くシングルノートの演奏等を習得します。
- ③ 16ビートの課題曲1、②を基に更にソロパートの解釈とその演奏スケール等を習得します。
- ④ 16ビートの課題曲2、課題曲にあったコードストロークによる演奏を確認、習得します。
- ⑤ 16ビートの課題曲2、④を基に更に深い演奏、メロディー等の演奏を習得します。
- ⑥ 16ビートの課題曲2、⑤を基に更に深くソロパートのスケール解釈やその演奏を習得します。
- ⑦ 課題曲の中からクォーター末試験を実技で行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、ストロークプレイ、シングルノートプレイに於いてしっかりと演奏が出来ているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アルペジオの課題曲 1、アルペジオによる演奏動作を確認、習得します。
- ⑨ アルペジオの課題曲 1、⑧を基に更に深くシングルノートのフレーズ演奏等を習得します。
- ⑩ アルペジオの課題曲 1、⑨を基に更に深い演奏、ソロパートの解釈とその演奏等を習得します。
- ⑪ ボサノバの課題曲 2、課題曲に合ったボサノバによる演奏を確認、習得します。
- ⑫ ボサノバの課題曲 2、⑪を基に更に深い演奏、メロディー等の演奏を習得します。
- ⑬ ボサノバの課題曲 2、⑫を基に更に深くソロパートのスケール解釈やその演奏を習得します。
- ⑭ 試験に向けての課題曲の練習、基本テクニックの確認をします。
- ⑮ 課題曲の中からクォーター末試験を実技で行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、ストロークプレイ、アルペジオプレイに於いてしっかりとした演奏が出来ているかを評価します。

特記事項

次の授業の前にはしっかりと前の授業の復習をしておいて下さい。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅢ
担当講師名	青井智佳子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

歌手にとって必要な、音楽を身体で聴く、音楽に乗ると言うことの基本を習得します。ジャズダンスとストリートダンスの基礎を習得し、学生自身のパフォーマンスに自分で役立てるように学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

体力、柔軟性、持久力が身に付きます。また、基礎的な動きやステップを使って、ステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。身体表現の授業における諸注意など大事なことを説明します。後半は早速実技の授業に入ります。
- ② 毎回の授業の開始時に行うウォーミングアップの説明を行います。長いので、数回に分けて実施します。また、振り付けにも入ります。
- ③ 音楽のリズムの取り方で、ダウンとアップの違いを説明します。
- ④ シャムロック、ウォークアウト、など、基礎的なステップを複数学びます。
- ⑤ 基礎的なステップと、振付課題を前回のものに加えて続けていきます。
- ⑥ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今までのおさらいと、中級のダンステクニックを学びます。ターンやアイソレーションが主な内容になります。
- ⑨ アイソレーションを利用して音楽に乗ることの説明と練習を行います。
- ⑩ 振付課題を進めます。課題曲の候補をあげ、学生の様子を見てテンポやジャンルを講師が選びます。
- ⑪ 少数人数のグループに分け、お互いを見合っ、良いところをピックアップし、各自が自分のパフォーマンスに取り入れます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、またレクチャーしていきます。
- ⑬ 少数人数のグループに分けて、メンバーがよりパフォーマンスが改善する方法をグループで話し合って行きます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに各自が自分のダンスと向き合っ、練習して行きます。講師にも自由に質問し、改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅣ
担当講師名	青井智佳子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

歌手にとって必要な、音楽を身体で聴く、音楽に乗ると言うことの応用を習得します。ジャズダンスとストリートダンスの中級レベルを習得し、学生自身のパフォーマンスに更に役立てるように学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスのステップや動きを使って、更にステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。後半は実技の授業に入ります。
- ② 振付課題を提示して行きます。
- ③ 振付課題のポイントや、特に練習と慣れが必要な部分を抜き出して部分練習します。部分練習は振付そのものの練習だけでなく、それが出来るための基礎的な練習方法もレクチャーして行きます。
- ④ グループに分かれて、お互いを見合いながら、改善して行きます。
- ⑤ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑥ 振付課題を繰り返し練習し、講師が説明するポイントを理解して、各自で練習に取り組んでいきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今までのおさらいと、応用のダンステクニックを学びます。課題曲の候補をあげ、振り付けに入ります。
- ⑨ 課題曲の候補をあげ、学生のレベルを見てクラス毎にテンポやジャンルを講師が選びます。
- ⑩ 振付課題の設定や目的を説明しますので、それらを理解して、自分のダンスに取り組んでいきます。
- ⑪ 少数人数のグループに分け、お互いを見合って、良いところをピックアップし、各自が自分のパフォーマンスに取り入れます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、より表現を高める目的で説明をし、練習をします。
- ⑬ 少人数のグループに分けて、メンバーがよりパフォーマンスが改善する方法をグループで話し合って行きます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに集中して取り組んでいきます。各自が自分のダンスと向き合い改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	テクニカルトレーニング I
担当講師名	三枝俊治、伊藤大助
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻、ベース専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は 30 年以上に亘りプログレッシブロックバンド KENSO に在籍し、高度な技術を要する演奏、作曲、アンサンブルの経験を持ちます。また、自身がコントラバス演奏をして率いるグループで、作曲作品の CD を発売しています。

授業内容

様々な音楽スタイルを演奏することにより、プロフェッショナルのミュージシャン、または上級アマチュアプレーヤーとして必要な技術、リズム感、知識を得るための授業です。毎回の初見演奏とメトロノームを使ったリズムトレーニングを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

読譜能力の向上と、様々な音楽スタイルに対応できるようにすることが目標です。バンドを組んで演奏する時、作曲者やアレンジャーの要求に応え、自分達でヘッドアレンジする時には自由で幅広い発想ができるようにトレーニングしていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Be-Bop-A-Lula を題材に、気持ちの良いシャッフルのグルーブが演奏できるように練習します。
- ②Come Together を題材に、手癖や一般的なパターンから離れて音楽を表現する練習をします。
- ③Master Blaster (Jammin') を題材に、ポップスの中でのレゲエスタイルの演奏を練習します。
- ④Seven Days を題材に、5 拍子のリズムに慣れ、安定したグルーブを生み出せるように練習します。
- ⑤Late In The Evening を題材に、アフロ的なドラムパターンと正確なベースのリズムを練習します。
- ⑥Nothing You Can Do About It を題材に、正確なシャッフルのリズムを練習します。
- ⑦中間試験：Sparkle を題材に、ポップスにおける正確なサブディヴァイドを身につけているか確認します。

中間試験評価方法・評価基準

ドラムとベースのコンビネーションをきちんと意識して演奏しているかどうかを採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧Le Freak を題材に、正確なビートとサブディヴァイドされたリズムの演奏を練習します。
- ⑨生まれた街で を題材に、自由な発想で作られたドラムとベースのコンビネーションを学びます。
- ⑩Five-Four を題材に、5 拍目にアクセントのある 5 拍子と、6 拍子の混ざるリズムを演奏します。
- ⑪Shaker Song を題材に、サンバ風ポップスソングの正確なリズムの演奏を練習します。
- ⑫Raise を題材に、ビートは 8 ビートでも速い 16 分音符を使ったスピード感溢れる演奏を練習します。
- ⑬Fawltly Tenors を題材に、16 分音符を 5 つずつ区切ってビートとずれていくフレーズの練習をします。
- ⑭Contusion を題材に、変拍子と変則リズムの組み合わせの演奏を練習します。
- ⑮学期末試験：Contusion を題材に、変拍子と変則リズムの演奏力をテストします。

期末試験評価方法・評価基準

ルーズなグルーブから正確なリズムまで演奏し分ける技術がどこまで身についているかを評価します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。また、日常の努力の結果が見られるかどうかを加点していきます。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	テクニカルトレーニング I (Gt)
担当講師名	宮川章彦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界で、バンドデビューをして、バックバンド、レコーディング、音楽制作などの経験を持ちます。

授業内容

1年時のベーシックテクニックに続いて更なるテクニック、基本技術を向上させます。テクニックと音楽性が結びつくように様々なバリエーションを持った楽曲を学びます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

より高度な楽曲への対応、さまざまなジャンルへの理解
クラシック、フュージョン、ソウル、カントリー、ボサノバ、ジャズなど

授業計画（1回目から7回目）

- ①ピッキングとフィンガリングの確認（フォーム確認）
- ②クラシカルアルペジオ（課題曲 ビラロボス、エチュード No2 をピック弾き）
- ③フュージョンギターテクニック 1（課題曲 ルーム 335 楽曲アナライズ&バックイング）
- ④フュージョンギターテクニック 2（課題曲 ルーム 335 ソロテクニックスケール把握）
- ⑤ソウルバックイングワーク（課題曲 ホワッツゴーイングオン、コード&フィルイン）
- ⑥ドリアンスケールとモード（課題曲 ソーホワット ドリアンスケールモード）
- ⑦中間試験 課題曲 バックイング&ソロ（課題曲 ルーム 335 バックイング&ソロ）

中間試験評価方法・評価基準

右手、左手のフォーム、テクニックとともに楽曲への対応、(アナライズ、リズムフィール等)を総合的に見ます

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ミクソリディアンスケールと 7th コード (課題曲 ザ チキン 7th コードへの対応)
- ⑨フュージョンギターテクニック、ファンク 1 (課題曲 ジャスト ファンキー)
- ⑩フュージョンギターテクニック、ファンク 2 (コードブォイシングテクニック)
- ⑪カントリー フィンガーピッキング (フィンガーピッキングテクニック)
- ⑫カントリー ソロワーク (カントリーリック練習)
- ⑬ボサノバ、バックキング (課題曲 ウェーブ ボサパターンバックキング)
- ⑭ボサノバ、ソロワーク (課題曲 ウェーブ アナライズとソロ)
- ⑮期末試験 ボサノバ (課題曲 ウェーブ ボサノバパターンバックキング&ソロ)

期末試験評価方法・評価基準

入学時からの個人別のテクニック向上を評価します。課題は右手、左手のフォーム、テクニックとともに楽曲への対応、(アナライズ、リズムフィール等)です。出席、授業への意欲、毎回の小テスト的な演奏も重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	テクニカルトレーニング II
担当講師名	三枝俊治、伊藤大助
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻、ベース専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は 30 年以上に亘りプログレッシブロックバンド KENSO に在籍し、高度な技術を要する演奏、作曲、アンサンブルの経験を持ちます。また、自身がコントラバス演奏をして率いるグループで、作曲作品の CD を発売しています。

授業内容

高度な技術とリズム感、集中力を必要とする曲の演奏に挑戦します。また、音楽的表現力がレベルアップできるように指導します。難易度の高い曲は 2 週にわたって取り組むこともあります。卒業後の自己鍛錬が続けられるような練習方法も指導します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バリエーションに富んだ曲に挑戦する事により、バンドの中で演奏する時に必要な技術を身につけ、自由に新しいバンドアレンジのアイディアの源泉としていくことが目標です。技術と知識がより自由な音楽表現を助けてくれる事を実感してもらいたいと思います。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①Yer Blues を題材に、同じビートで跳ねるリズムと跳ねないリズムの間を移行する演奏の練習をします。
- ②Don't Give Up を題材に、3 拍子の曲の 6 拍子的な解釈と 2 拍 3 連を交えた表現を練習します。
- ③Shoppin' Round Again を題材に、16 ビートの正確なサブディヴァイドを練習します。
- ④Spain を題材に、難易度の高いユニゾンフレーズと、フュージョンのサンバを練習します。
- ⑤Nica's Dream を題材に、ラテンのリズムとスウィングのリズムのチェンジを練習します。
- ⑥Songo Bop を題材に、ソongo、フュージョン的なリズムのキメ、セクション毎の変化を練習します。
- ⑦中間試験：Songo Bop を題材に演奏力をテストします。

中間試験評価方法・評価基準

サブディヴァイドの感覚と、リズムやビートのチェンジ、セクション毎の違いの表現力を採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧Space Cowboy を題材に、16 ビートをいかにグルーブさせるかを練習します。
- ⑨Show を題材に、16 ビートフィーリングの混ざる 8 ビートの感覚と、組み合わせパターンを練習します。
- ⑩Colibri を題材に、16 分音符の正確なサブディヴァイドとグルーブを作る練習をします。
- ⑪Josie を題材に、16 ビートフィーリングの混ざる 8 ビートをいかにグルーブさせるかを練習します。
- ⑫Minute By Minute を題材に、12/8 拍子のシャッフルとトリッキーなリズムアレンジを練習します。
- ⑬Partido Alto を題材に、パルチドアルトのリズムに慣れ、グルーブさせる練習をします。
- ⑭Unicorn を題材に、難易度の高いフュージョンの曲を 2 週間かけて練習し、仕上げていきます。
- ⑮学期末試験：Unicorn を題材に、正確な 16 分音符をグルーブさせる演奏に取り組み、テストします。

期末試験評価方法・評価基準

一年間の演奏力の進歩、読譜力、リズム感の進歩等、総合的に採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。また、日常の努力の結果が見られるかどうかを加点していきます。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	テクニカルトレーニングⅡ(Gt)
担当講師名	宮川章彦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界で、バンドデビューをして、バックバンド、レコーディング、音楽制作などの経験を持ちます。

授業内容

1年時のベーシックテクニックに続いて更なるテクニック、基本技術を向上させます。テクニックと音楽性が結びつくように様々なバリエーションを持った楽曲を学びます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

さらなるテクニックの取得、複雑なコード進行への対応
アナライズしてコードへのスケールの対応力を強化します
より細かいリズム、ジャンルのフィーリングの取得

授業計画（1回目から7回目）

- ①ジャズ、スウィングスタイル、コードワーク（Jazz ブルース、ウォーキング&コード）
- ②ジャズ、スウィングスタイル、ソロワーク（Jazz ブルース、ソロ、アプローチノート）
- ③フュージョンギタースタイル、シャッフル1（課題曲 レベレーション、コードワーク）
- ④フュージョンギタースタイル、シャッフル2（課題曲 レベレーション、メロディ&ソロ）
- ⑤フュージョンギタースタイル、サンバ（課題曲 スペイン、コード、メロディ、ソロ）
- ⑥ボサノバ、サンバ、パルチードアルト（課題曲 ブルックリンハイ）
- ⑦中間試験 パルチードアルト（課題曲 ブルックリンハイ、パルチードアルト）

中間試験評価方法・評価基準

右手、左手のフォーム、テクニックとともに楽曲への対応、（アナライズ、リズムフィール等）を総合的に見ます

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧クラシックギタースタイル、アルペジオ（課題曲 ビラロボス、エチュード No1）
- ⑨クラシックギタースタイル、ソロギター（課題曲 そのあくる日）
- ⑩スウィープ、エコノミーピッキングエクササイズ（高度な右手ピッキング練習）
- ⑪ジャズ、ビバップスタイル1（課題曲 ドナリー、コードアナライズ、メロディー研究）
- ⑫ジャズ、ビバップスタイル2（課題曲 ドナリー、バップフレーズ&ソロ）
- ⑬ジャズ、複雑なコード進行1（課題曲 インビテーション、アナライズ&コードワーク）
- ⑭ジャズ、複雑なコード進行2（課題曲 インビテーション、メロディ&ソロ）
- ⑮期末試験 ジャズ（課題曲 ドナリーor インビテーション）

期末試験評価方法・評価基準

入学時からの個人別のテクニック向上を評価します。課題は右手、左手のフォーム、テクニックとともに楽曲への対応、(アナライズ、リズムフィール等)です。出席、授業への意欲、毎回の小テスト的な演奏も重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅢ
担当講師名	山本裕之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース専攻

担当科目に関連する実務経歴

ベーシストとして NHK 総合「あさイチ」、テレビ朝日『題名のない音楽会』、BS ジャパン「おんがく交差点」等に演奏出演。多くのライブサポート、レコーディングに参加している

授業内容

基本の理論を実践的に使える様に具体的なコード進行、リズム、ジャンル、楽曲を使いベースライン作りとアドリブソロ演習を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コード進行を見て、またはサウンドを聴いて、コードトーン、テンションノート、使用可能なスケールが分かるようにします。ジャンルやリズムのフィールにあったベースラインを作れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①メジャーキーのツーファイブ進行
- ②循環コード進行
- ③マイナーキーのツーファイブ進行
- ④ブルース進行とそのバリエーション(3コード、ジャズブルース等)
- ⑤マイナーキーのブルース進行
- ⑥サブドミナントマイナー
- ⑦試験(上記の進行の楽曲)

中間試験評価方法・評価基準

演奏内容（授業で取り上げたコード進行を題材に、様々なバリエーションの bass line、アドリブソロを実際の演奏でアウトプットできること）、及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容なので、出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧セカンダリードミナントを使った進行
- ⑨ディミニッシュ7thコードを使った進行
- ⑩ウォーキングのベースライン、コードトーンと経過音
- ⑪ウォーキングのベースライン、スケールとグループ
- ⑫スイング系のフィール(バウンス系)のフィール
- ⑬2ビートのベースライン
- ⑭4度進行
- ⑮試験(上記の練習曲から出題)

期末試験評価方法・評価基準

演奏内容（授業で取り上げたコード進行を題材に、様々なバリエーションの bass line、アドリブソロを実際の演奏でアウトプットできること）、及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容なので、出席も重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅢ
担当講師名	加藤直紀
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関連する実務経歴

インストフュージョンバンド「Traffic Information」のメンバーとして、ジャズやロックな様々なジャンルでインプロヴィゼーションを伴った楽曲での CD アルバム 3 枚、LiveDVD1 枚を発表しています。

授業内容

様々な仕掛けのあるコード進行、楽曲を使って、そのコードプログレッションを理解し、その中でどのようなアプローチでアドリブ、インプロヴィゼーションができるかを学び、また実践していきます。まずはギタリストに必要な指板上のシステムを徹底的に理解していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

メジャースケールのダイアトニックコードでの基本的な 5 ポジション上で、スケールダイアグラムをしっかりと見えるようにし、それぞれの場所でアドリブができるようになること、またモード的な手法でのアドリブができるようになることが主な目標です。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①1 年次に学んだ基礎的なこと（理論やテクニック等）が理解できているかの確認をします。
- ②「C Major Etude」でメジャースケールを使ったアドリブを学んでいきます。またコードフォームの確認も同時に行います。
- ③「A Minor Etude」でナチュラルマイナースケールを使ったアドリブ、またマイナーキーでのドミナントの解決の仕方を学んでいきます。
- ④一般的なブルース進行でのアドリブ、メジャーペンタ、マイナーペンタの使い方、よく使うフレージング等を学びます。
- ⑤「A7 Etude」でミクソリディアンを使ったアドリブ、またミクソリディアンでのバックキングの作り方等を学んでいきます。
- ⑥「C Dorian Etude」でドリアンを使ったアドリブ、またドリアンでのバックキングの作り方等を学んでいきます。
- ⑦試験：課題曲でのバックキングとアドリブをします。

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、課題曲（最後の授業で決定）での演奏で該当するスケールを使ってアドリブができているか等、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「A Lydian Etude」でリディアンを使ったアドリブ、またリディアンでのバックキングの作り方等を学んでいきます。
- ⑨ 「C Major 系 Mode Etude」でメジャー系のモードを使ったアドリブ、スケールチェンジの仕方を学んでいきます。
- ⑩ 「C Major 系 Mode Etude」でメジャー系のモードを使ったアドリブ、スケールチェンジ、ブルースフィーリングの入れ方を学んでいきます。
- ⑪ 「C Minor 系 Mode Etude」でマイナー系のモードを使ったアドリブ、スケールチェンジの仕方を学んでいきます。
- ⑫ 「C Minor 系 Mode Etude」でマイナー系のモードを使ったアドリブ、スケールチェンジ、ドミナントでの処理等を学んでいきます。
- ⑬ 「Am 16Beat Etude」でよく使われる循環コードでのカッティングによるバックキング、アヴェイラブルノートスケールを使ったアドリブを学びます。
- ⑭ 「Am 16Beat Etude」でよく使われるコード進行でのカッティングによるバックキング、アヴェイラブルノートスケールを使ったアドリブ、ジャズ的アプローチの仕方を学びます。
- ⑮ 試験：課題曲でのバックキングとアドリブをします。

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、課題曲（最後の授業で決定）での演奏で該当するスケールを使ってアドリブができているか等、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅢ
担当講師名	山村牧人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻

担当科目に関連する実務経歴

1982年より演奏活動開始。今日に至るまで自主企画ライブ、アーティスト・サポート、レコーディング、楽器制作、演奏データ制作、リズムアレンジの書籍出版等の演奏及び関連制作業務。並行して1990年以降、楽器店でのドラムレッスンや講師の委託を受け、92年からドラム専門誌へのセミナー記事連載を開始し、20年以上の連載と自著ドラム教則本の出版多数。本校では93年からDTMの講師として、プロミュージシャン学科発足からドラム講師として勤務。

授業内容

ロック、ファンク、ジャズ、ラテン、フュージョンなど楽曲のスタイルとドラミング・コンセプトの関係を軸として、フレーズやアーティキュレーションの幅を広げていきます。様々なジャンルの奏法メカニズムやテクニックを取り込んで行くことを目標とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なジャンルのドラミングの中から、奏法のコンセプトを取り出して習得し、ジャンルを問わず応用できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①初期ロックスタイル / 60～70年代ロック・ドラミングのエッセンスと演習
- ②ロックスタイルの変遷 / 80年代以降のロック・ドラミングの奏法と演習
- ③ファンクスタイルとジャズからの変遷 / 70～80年代ファンクスタイルのエッセンスと演習
- ④ファンクスタイルのテクニカル部分とその発展 / 90年代以降のファンク～フュージョン・ドラミングの奏法と演習
- ⑤アドバンス・コンビネーションとサブディバイズ / リニア・ドラミングとサブディバイズ・フレージングの紹介と演習
- ⑥ルーディメンツとドラミングへの応用 / Roll, Paraddidle, Flam Ruffなど基本ルーディメンツとエチュード
- ⑦クォーター試験：テクニックフレージングの実践 / スネア・ソロからドラムセットまで、テクニカルなフレージングを伴った実技展開演奏

中間試験評価方法・評価基準

授業での平常点を主として、試験演奏に現れる習得度や練習の達成度を加えて評価します。
試験点：30% / 平常点：50% / 出席点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧グルーピング・フレージング / サブディバイズを単位とした、グルーピング・フレーズの組み立て方とコンビネーション応用
- ⑨フィール・チェンジ (1) / ベーシックなロックスタイルのフィールチェンジ。Half time、2倍、4倍まで
- ⑩ギミック系アイデア / シフト、モジュレーションなどのギミックと拍子キープのトレーニング
- ⑪ラテン系スタイル (1) ブラジル / ラテン・ミュージックとドラミングスタイルの歴史。ブラジル系スタイルの演習
- ⑫ラテン系スタイル (2) カリブ海周辺 / カリプソ～レゲエ～スカ～メレンゲなどカリブ海周辺の音楽紹介と演習
- ⑬ラテン系スタイル (3) キューバ / ソン～ルンバ～コンパルサなどキューバン・スタイルの紹介と演習
- ⑭フィール・チェンジ (2) / 本クォーターの復習と、フィールチェンジでの展開演習
- ⑮学期末試験：テクニック&ラテン系の混在エチュード / フュージョン～プログレッシヴな演奏ジャンルを想定したエチュード演奏

期末試験評価方法・評価基準

テクニックへの理解度と、奏法コンセプトの習得度を実技評価します。
試験点：30% / 平常点：50% / 出席点：20%

特記事項

※学生の習熟度によって内容や方法論は適宜変更調整していきますが、基本となる目標は変わりません。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅣ
担当講師名	山本裕之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース専攻

担当科目に関連する実務経歴

ベーシストとして NHK 総合「あさイチ」、テレビ朝日『題名のない音楽会』、BS ジャパン「おんがく交差点」等に演奏出演。多くのライブサポート、レコーディングに参加している

授業内容

ジャンルやリズム、テンポによるフィーリングの違いを理解した演奏を身につけます。実際に使われているコード進行や曲を題材にします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分でベースラインを作る場合はもちろん、曲を聴いた時にもそのジャンルのフィーリングが理解できる様にしましょう。アドリブソロや曲のアレンジにも行かせるのが理想です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①8 ビート(ロック、カントリー、ポップスにおける8ビートのベースライン)
- ②16 ビート(ソウル、ファンク系の16ビートのベースライン)
- ③8 ビート、シャッフル(ブルース、ロックに代表される8ビートシャッフルのベースライン)
- ④16 ビート、シャッフル(R&B、ファンク系の16ビートシャッフルのベースライン)
- ⑤3/4 6/8 12/8 (3拍子系のベースライン)
- ⑥バラード(ジャンルを問わずいわゆるバラード系のベースライン)
- ⑦試験(上記のリズムの中から出題)

中間試験評価方法・評価基準

演奏内容（授業で取り上げたコード進行を題材に、様々なバリエーションの bass line、アドリブソロを実際の演奏でアウトプットできること）、及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容なので、出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ブラジル系(ボサノバ、サンバ)のベースライン
- ⑨ブラジル系(Partido Alto)のベースライン
- ⑩アフロ・キューバンのベースライン
- ⑪カリプソ、レゲエのベースライン
- ⑫変拍子(5/4 7/8 等の変拍子のベースライン)
- ⑬曲を使った演習 1（学生のレベルに合わせた練習曲でベースラインメイキングとアドリブソロ）
- ⑭曲を使った演習 2（学生のレベルに合わせた練習曲でベースラインメイキングとアドリブソロ）
- ⑮試験(上記練習曲の中から出題)

期末試験評価方法・評価基準

演奏内容（各ジャンルのグルーヴ・スタイルを理解し、様々なバリエーションでスムーズに伴奏、Solo を組み立てること。）及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容なので、出席も重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅣ
担当講師名	加藤直紀
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関連する実務経歴

インストフュージョンバンド「Traffic Information」のメンバーとして、ジャズやロックな様々なジャンルでインプロヴィゼーションを伴った楽曲での CD アルバム 3 枚、LiveDVD1 枚を発表しています。

授業内容

前期で学んだスケールやコードののポジション、フレージング、バックイングの仕方等を、実際にスタンダード等の曲を使って実践していきます。主にジャズ系の楽曲を使用します。

到達目標(この授業で何ができるようになるのか)

スケールとコードのポジションを相互に記憶できており、そのポジションでのフレージングに結びつけて考えることができている、また基本的なジャズのフレージング、バックイングの手法を理解しているということが到達目標です。

授業計画(1回目から7回目)

- ①「Autumn Leaves」でテーマの弾き方、基本的な4ビートでのバックイング、Ⅱ－Ⅴフレーズを使ったアドリブを学んでいきます。
- ②「Autumn Leaves」でテーマの弾き方、基本的な4ビートでのバックイング、Ⅱ－Ⅴフレーズを使ったアドリブをセッションを通じて学んでいきます。
- ③「Blue Bossa」でテーマの弾き方、ボサノバのバックイング、アドリブ、HP5、Alterd,、Com,dim の使い方を学んでいきます。
- ④「Blue Bossa」でテーマの弾き方、ボサノバのバックイング、アドリブ、HP5、Alterd,、Com,dim の使い方をセッションを通じて学んでいきます。
- ⑤「Girl From Ipanema」でテーマの弾き方、ボサノバのバックイング、Lydianb7を使ったアドリブを学んでいきます。
- ⑥「Girl From Ipanema」でテーマの弾き方、ボサノバのバックイング、Lydianb7を使ったアドリブをセッションを通じて学んでいきます。
- ⑦試験:課題曲でのバックイングとアドリブをします。

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、課題曲(最後の授業で決定)での演奏で該当するスケールを使ってアドリブができているか等、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

授業計画(8回目から15回目)

- ⑧「Straight, No Chaser」で基本的なジャズブルースの仕組み、ウォーキングベースを含んだバックキングの方法を学びます。
- ⑨「Straight, No Chaser」でウォーキングベースを含んだバックキングとアドリブをします。
- ⑩「All The Things You Are」でのテーマとバックキング、アナライズ、参考フレーズの練習をします。
- ⑪「All The Things You Are」でのテーマとバックキング、アナライズとアドリブをします。⑫「Donna Lee」でのテーマとバックキング、アナライズと参考フレーズの練習をします。
- ⑬「Donna Lee」でのテーマとバックキング、アナライズとアドリブをします。
- ⑭アドリブとインプロヴィゼーションの違いを理解し、実践してみます。
- ⑮試験:課題曲でのバックキングとアドリブをします。

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、課題曲(最後の授業で決定)での演奏で該当するスケールを使ってアドリブができているか等、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅣ
担当講師名	山村牧人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻

担当科目に関連する実務経歴

1982年より演奏活動開始。今日に至るまで自主企画ライブ、アーティスト・サポート、レコーディング、楽器制作、演奏データ制作、リズムアレンジの書籍出版等の演奏及び関連制作業務。並行して1990年以降、楽器店でのドラムレッスンや講師の委託を受け、92年からドラム専門誌へのセミナー記事連載を開始し、20年以上の連載と自著ドラム教則本の出版多数。本校では93年からDTMの講師として、プロミュージシャン学科発足からドラム講師として勤務。

授業内容

ドラムセットのルーツをたどり、黒人の歴史、ニューオーリンズ・ビートやアフロ6/8ポリリズム、ベーシックなジャズ・ドラミングからロックやファンクへの進化まで、ポピュラー・リズムの源泉を演習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なスタイルの誕生の礎を知ることで、オリジナルであることの意義を感じて演奏できることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①アドバンス・ストローク / モーラー奏法、グラッドストーン奏法の背景、メカニズムの理解と導入
- ②ニューオーリンズ・スタイル (1) / 黒人の歴史と、ニューオーリンズで生まれたセカンドラインのスネア奏法
- ③ニューオーリンズ・スタイル (2) / ドラムセットでのセカンドライン・スタイルとロック・ドラミングへの展開
- ④ニューオーリンズ・スタイル (3) / テクニカルな要素を含んだコンテンポラリーなセカンドライン・ドラミングのアイデア
- ⑤コール&レスポンス / 2人以上のアンサンブルによるコール&レスポンスの理解とリズム・アンサンブル演習
- ⑥アフロ6/8ポリリズム / 6/8ナニーゴなどアフロ系ポリリズムと打楽器メロディによるドラミング演習

⑦クォーター試験：変拍子、混合拍子 / 同一テンポで複数の拍子を混合して実技演奏

中間試験評価方法・評価基準

伝統的なスタイルとそのフィーリング、サウンドの再現を評価します。

試験点：30% / 平常点：50% / 出席点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ジャズ・ドラミング (1) / ドラムセット誕生の歴史とベーシックなSwingスタイルの紹介とシンバルレガートの演習
- ⑨ジャズ・ドラミング (2) / ジャズ・ドラミングのシンコペーション・アプローチとコンピング
- ⑩ジャズ・ドラミング (3) / ハイハットのレガートやタム・グループ、ブローケンレガートなどのバリエーション
- ⑪ドラム・ソロ / ドラム・ソロの実例、考え方とパート作り
- ⑫フィール・チェンジ (3) / 既存のスタイルに限らない、スタイルやリズムフィールの混在と実験的考察
- ⑬オリジナルなドラム・アンサンブル / スタイル、拍子、ジャンルなど複数の要素とオリジナル性を目指した、ドラム・アンサンブル・エチュードの作成
- ⑭オリジナル・エチュード演習 / 本学期に演習した奏法を盛り込んだドラム・パート譜に基づいた実技演奏の準備
- ⑮クォーター試験：オリジナルエチュードの演奏 / 本クォーターで作成したオリジナルなエチュードを自信で実技演奏

期末試験評価方法・評価基準

オリジナルな演奏を目指して、どのような課題を設定し演奏したかを評価します。

試験点：30% / 平常点：50% / 出席点：20%

特記事項

※学生の習熟度によって内容や方法論は適宜変更調整していきますが、基本となる目標は変わりません。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークス III
担当講師名	宮川章彦 高山毅 杉野寿之 阿久井喜一郎
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

いろいろな演奏経験と長年バンド指導をしてきた経験から実践的な方法で教えていこうと思っています。

授業内容

様々なジャンルの楽曲をギター、ベース、ドラムのリズムセクションによるアンサンブルで学んでいきます。

2週間で1曲を仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バンドで活動するだけでなくスタジオミュージシャンやバックバンド、サポートをしっかり出来る技術を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①レベル確認、初回シンプルな曲でのセッション
- ②8ビート（ロック系）の曲を演奏（1週目）
- ③8ビート（ロック系）の曲を演奏（2週目）
- ④8ビート（ポップス系）の曲を演奏（1週目）
- ⑤8ビート（ポップス系）の曲を演奏（2週目）
- ⑥16ビート（ファンク系）の曲を演奏（1週目）
- ⑦16ビート（ファンク系）の曲を演奏（2週目）（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧16ビート（ポップス系）の曲を演奏（1週目）
- ⑨16ビート（ポップス系）の曲を演奏（2週目）
- ⑩シャッフル（8ビート）の曲を演奏（1週目）
- ⑪シャッフル（8ビート）の曲を演奏（2週目）
- ⑫シャッフル（16ビート）の曲を演奏（1週目）
- ⑬シャッフル（16ビート）の曲を演奏（2週目）
- ⑭4ビートの曲を演奏（1週目）
- ⑮4ビートの曲を演奏（2週目）（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークスⅣ
担当講師名	宮川章彦 高山毅 杉野寿之 阿久井喜一郎
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

いろいろな演奏経験と長年バンド指導をしてきた経験から実践的な方法で教えていこうと思っています。

授業内容

様々なジャンルの楽曲をギター、ベース、ドラムのリズムセクションによるアンサンブルで学んでいきます。

2週間で1曲を仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バンドで活動するだけでなくスタジオミュージシャンやバックバンド、サポートをしっかり出来る技術を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ブラジル系（ボサノバ）の曲を演奏（1週目）
- ②ブラジル系（ボサノバ）の曲を演奏（2週目）
- ③ブラジル系（パルチドアルト）の曲を演奏（1週目）
- ④ブラジル系（パルチドアルト）の曲を演奏（2週目）
- ⑤ラテン系（ソンゴ）の曲を演奏（1週目）
- ⑥ラテン系（ソンゴ）の曲を演奏（2週目）
- ⑦3クォーターの課題曲から選曲して演奏（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ジャズワルツの曲を演奏（1週目）
- ⑨ジャズワルツの曲を演奏（2週目）
- ⑩8分の6拍子の曲を演奏（1週目）
- ⑪8分の6拍子の曲を演奏（2週目）
- ⑫変拍子の曲を演奏（1週目）
- ⑬変拍子の曲を演奏（2週目）
- ⑭4ビート+ラテンの曲を演奏（1週目）
- ⑮4ビート+ラテンの曲を演奏（2週目）（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	テクニカルトレーニング I
担当講師名	大古晴菜
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は様々なアーティストのライブツアーや音楽番組での演奏、レコーディング、楽器指導等の経験を持ちます。又、ヤマハ大人の音楽レッスン講師育成研修や教材開発に携わっています。

授業内容

鍵盤楽器演奏における基礎力の更なる向上を目指すと共に、様々なスタイルに対応できるように楽曲を通して演奏法を学んでいきます。又、初見力読譜力をつけることも大切です。春学期は、スムーズなコードワークやテンションコードをマスターし、必要な理論やバンドでのキーボード演奏を中心に、様々なジャンルのアプローチや音色ごとの基本的な奏法を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

更なる基礎力の向上と様々なジャンルを理解し演奏できる事、読譜力の向上を目標とします。弾き語りスタイルからバンド演奏のスタイルを理解していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 8beat：ビートの捉え方やニュアンス、ストロークなど Rock, Pops 系の楽曲を通して学んでいきます。
- ② 8beat：Rock, Pops 系の楽曲を通して学んでいきます。音色ごとの奏法に触れていきます。
- ③ 16beat：ビートの捉え方やニュアンスなど楽曲を通して学んでいきます。
- ④ 16beat：シャッフルの捉え方、音色ごとの奏法に触れていきます。
- ⑤ バラード：8beat、ロックバラード、16beat 様々な楽曲を通して歌もの伴奏を学びます。
- ⑥ バラード：8beat、ロックバラード、16beat 様々な楽曲を通して歌もの伴奏を学びます。
- ⑦ 中間試験：授業で扱った曲を課題曲とし演奏します。初見演奏も行います。

中間試験評価方法・評価基準

楽曲演奏と初見演奏を行います。

授業で学んだ、ビートの捉え方やニュアンスを理解して演奏できているか、日頃の取り組みと合わせて評価します。

出席：30% 平常点：40% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Blues：Bluesの形式を理解、演奏します。ブルージーなサウンドを学びます。
- ⑨ Blues：様々なキーの楽曲、スケールを用いてアドリブ演奏をします。
- ⑩ R&B/Funk：楽曲を用いてリズムの捉え方や、音色ごとの基本的な奏法を学びます。
- ⑪ R&B/Funk：楽曲を用いてリズムの捉え方や、音色ごとの基本的な奏法を学びます
- ⑫ Bossa Nova：楽曲を用いてバックギングパターンをマスターします。Tensionコードも沢山活用していきます。
- ⑬ Bossa Nova/Samba：ソロスタイルアレンジに触れていきます。
- ⑭ 総まとめ
- ⑮ 期末試験：授業で扱った曲を課題曲として演奏します。初見演奏も行います。

期末試験評価方法・評価基準

楽曲演奏と初見演奏を行います。

授業で学んだ、ビートの捉え方やニュアンスを理解して演奏できているか、日頃の取り組みと合わせて評価します。

出席：30% 平常点：40% 試験：30%

特記事項

授業では、音色や奏法に特化したことも行うため自身のキーボードを持参してください。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	テクニカルトレーニングⅡ
担当講師名	大古晴菜
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は様々なアーティストのライブツアーや音楽番組での演奏、レコーディング、楽器指導等の経験を持ちます。又、ヤマハ大人の音楽レッスン講師育成研修や教材開発に携わっています。

授業内容

鍵盤楽器演奏における基礎力の更なる向上を目指すと共に、様々なスタイルに対応できるように楽曲を通して演奏法を学んでいきます。又、初見力読譜力をつけることも大切です。秋学期は、ソロスタイルのアレンジやオープンヴォイシングなどを取り入れ、より高度な演奏スタイルの習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

更なる基礎力の向上と様々なジャンルを理解し演奏できる事、読譜力の向上を目標とします。ジャズやフュージョンなどより高度な楽曲を取り入れ、ソロスタイルアレンジのプロセスを学び、様々な場面に対応する力をつける事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Swing：ビートの捉え方、ニュアンス、テンションコードの活用に触れます。（右メロディー、左コード）
- ② Swing：楽曲を通してバックイング(オープンヴォイシング)に触れていきます。
- ③ Swing：楽曲を通してバックイング(オープンヴォイシング)の経験を積みます。
- ④ Swing：楽曲を演奏し、Fusion 曲にも取り組みます。
- ⑤ Fusion：ビートの捉え方、ニュアンス、テンションコードの活用に触れます。（右メロディー、左コード）
- ⑥ Fusion：楽曲を通し、バックイング、アドリブにも挑戦します。
- ⑦ 中間試験：授業で扱った曲を課題曲とし演奏します。初見演奏も行います。

中間試験評価方法・評価基準

楽曲演奏と初見演奏を行います。

授業で学んだ、ビートの捉え方やニュアンス、オープンヴォイスングを理解して演奏できているか、日頃の取り組みと合わせて評価します。

出席：30% 平常点：40% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ソロアレンジ：基本 メロディー＋ハーモニー。ベースラインをつけていきます。
- ⑨ ソロアレンジ：様々なアレンジ手法と楽曲演奏
- ⑩ ソロアレンジ：様々なアレンジ手法と楽曲演奏
- ⑪ ソロアレンジ：オープンヴォイスングを使ったアレンジ、楽曲演奏で理解を深めます。
- ⑫ ソロアレンジ：アレンジを進めていきます。
- ⑬ ソロアレンジ：アレンジを進めていきます。
- ⑭ ソロアレンジ：アレンジを進めていきます。
- ⑮ 期末試験：授業内でアレンジした楽曲の演奏と譜面提出をします。

期末試験評価方法・評価基準

アレンジした楽曲演奏を行います。今まで学んだことの集大成とし総合的に評価します。

出席：30% 平常点：40% 試験：30%。

特記事項

授業では、音色や奏法に特化したことも行うため自身のキーボードを持参してください

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークス III
担当講師名	宮川章彦 高山毅 杉野寿之 阿久井喜一郎
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

いろいろな演奏経験と長年バンド指導をしてきた経験から実践的な方法で教えていこうと思っています。

授業内容

様々なジャンルの楽曲をギター、ベース、ドラムのリズムセクションによるアンサンブルで学んでいきます。

2週間で1曲を仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バンドで活動するだけでなくスタジオミュージシャンやバックバンド、サポートをしっかり出来る技術を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①レベル確認、初回シンプルな曲でのセッション
- ②8ビート（ロック系）の曲を演奏（1週目）
- ③8ビート（ロック系）の曲を演奏（2週目）
- ④8ビート（ポップス系）の曲を演奏（1週目）
- ⑤8ビート（ポップス系）の曲を演奏（2週目）
- ⑥16ビート（ファンク系）の曲を演奏（1週目）
- ⑦16ビート（ファンク系）の曲を演奏（2週目）（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧16ビート（ポップス系）の曲を演奏（1週目）
- ⑨16ビート（ポップス系）の曲を演奏（2週目）
- ⑩シャッフル（8ビート）の曲を演奏（1週目）
- ⑪シャッフル（8ビート）の曲を演奏（2週目）
- ⑫シャッフル（16ビート）の曲を演奏（1週目）
- ⑬シャッフル（16ビート）の曲を演奏（2週目）
- ⑭4ビートの曲を演奏（1週目）
- ⑮4ビートの曲を演奏（2週目）（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークス IV
担当講師名	宮川章彦 高山毅 杉野寿之 阿久井喜一郎
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

いろいろな演奏経験と長年バンド指導をしてきた経験から実践的な方法で教えていこうと思っています。

授業内容

様々なジャンルの楽曲をギター、ベース、ドラムのリズムセクションによるアンサンブルで学んでいきます。

2週間で1曲を仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バンドで活動するだけでなくスタジオミュージシャンやバックバンド、サポートをしっかり出来る技術を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ブラジル系（ボサノバ）の曲を演奏（1週目）
- ②ブラジル系（ボサノバ）の曲を演奏（2週目）
- ③ブラジル系（パルチドアルト）の曲を演奏（1週目）
- ④ブラジル系（パルチドアルト）の曲を演奏（2週目）
- ⑤ラテン系（ソンゴ）の曲を演奏（1週目）
- ⑥ラテン系（ソンゴ）の曲を演奏（2週目）
- ⑦3クォーターの課題曲から選曲して演奏（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ジャズワルツの曲を演奏（1週目）
- ⑨ジャズワルツの曲を演奏（2週目）
- ⑩8分の6拍子の曲を演奏（1週目）
- ⑪8分の6拍子の曲を演奏（2週目）
- ⑫変拍子の曲を演奏（1週目）
- ⑬変拍子の曲を演奏（2週目）
- ⑭4ビート+ラテンの曲を演奏（1週目）
- ⑮4ビート+ラテンの曲を演奏（2週目）（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	マニピュレートゼミⅢ
担当講師名	宇田隆志
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

約 20 年間に渡ってキーボードプレイヤー、作編曲、またコンサートで DAW 使用を併用し楽器演奏など。

授業内容

Logic Pro、Digital Performer 等の DAW を使用してシーケンストラックの製作及び編曲を学習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来的にキーボーディストとしてステージに立った時、マニピュレーターとしての実務を兼ねて演奏するスタイルを確立する。同時に DAW を出来る限り熟知し、作家としての能力も鍛錬する。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①MIDI の基本的な作業であるクオンタイズ、ヴェロシティー、デュレーション設定の学習。
- ②オーディオデータ編集の学習。またシーケンスヴォイスカウント、クリック、セクションマーキングの作り方の学習。
- ③マイケル・ジャクソン ”スリラー” を題材に 1 コーラス分リズムトラックの作成。
- ④マイケル・ジャクソン ”スリラー” を題材に 1 コーラス分シンセバックキング、テーマ部の作成。
- ⑤YMO ”ビハインド ザ マスク” を題材にし 1 コーラス分リズムトラックの製作。
- ⑥YMO ”ビハインド ザ マスク” を題材にし 1 コーラス分シンセトラックの製作。
- ⑦クォーター末試験。生徒自身作曲による楽曲（8 小節インスト曲）の発表。

中間試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%
楽曲のデータと譜面も併せて提出し、音楽的に成立している作品か否かを見極める。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧サカナクション ”Ame” をを題材にし1コーラス分リズムトラックの製作。
- ⑨サカナクション ”Ame” をを題材にし1コーラス分シンセトラックの製作。
- ⑩生徒自身のインストオリジナル楽曲の製作。まずは譜面制作とリズムトラックの製作。
- ⑪生徒自身のインストオリジナル楽曲の製作。バックトラックの製作。
- ⑫生徒自身のインストオリジナル楽曲の製作。テーマ部の制作。
- ⑬生徒自身のインストオリジナル楽曲の製作。FX等装飾音の制作。
- ⑭生徒自身のインストオリジナル楽曲の製作。最終データ整理と確認。
- ⑮クォーター末試験。ライブ形式でインストオリジナル楽曲の発表。DAWとマニュアル演奏で行うものとする。

期末試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%

楽曲の実演と、譜面、シーケンスデータも併せて提出し、音楽的に成立している作品か否かを見極める

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	マニピュレートゼミⅣ
担当講師名	宇田隆志
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

約 20 年間に渡ってキーボードプレイヤー、作編曲、また DAW 使用を併用したコンサート演奏活動等。

授業内容

Logic Pro、Digital Performer を使用してシーケンストラックの製作及び編曲を学習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来的にキーボーディストとしてステージに立った時、マニピュレーターとしての実務を兼ねて演奏するスタイルを確立する。同時に DAW を出来る限り熟知し、作家としての能力も鍛錬する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①PIANO テーマのインスト楽曲の制作。譜面制作とベーシックトラックの製作。
- ②PIANO テーマのインスト楽曲の制作。ベーシックトラックとテーマ部の制作。
- ③PIANO テーマのインスト楽曲の制作。FX 等、装飾音の制作とブラッシュアップ。
- ④シンセを多用するテクノ系インスト楽曲の制作。譜面制作とベーシックトラックの製作。
- ⑤シンセを多用するテクノ系インスト楽曲の制作ベーシックトラックとテーマ部の制作。
- ⑥シンセを多用するテクノ系インスト楽曲の制作。FX 等、装飾音の制作とブラッシュアップ。
- ⑦クォーター末試験。テクノ系インスト楽曲の発表。DAW 使用、マニュアル演奏によるライブ形式で行うものとする。

中間試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%

楽曲のデータと譜面も併せて提出し、音楽的に成立している作品か否かを見極める。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Lo Fi Hip Hop 的要素のジャジーな楽曲制作。譜面制作とベーシクトラックの製作。
- ⑨Lo Fi Hip Hop 的要素のジャジーな楽曲制作。ベーシクトラックとテーマ部の制作。
- ⑩Lo Fi Hip Hop 的要素のジャジーな楽曲制作。FX等、装飾音の制作とブラッシュアップ。
- ⑪生徒自身の人選によるバンドのオリジナル楽曲の製作。譜面制作と DEMO 製作とアレンジ作業の開始。
- ⑫生徒自身の人選によるバンドのオリジナル楽曲の製作。シーケンストラックの製作。
- ⑬生徒自身の人選によるバンドのオリジナル楽曲の製作。スタジオリハーサルを行いアレンジとシーケンストラックのデータ整理。
- ⑭生徒自身の人選によるバンドのオリジナル楽曲の製作。2回目のスタジオリハーサルを行いブラッシュアップ作業。
- ⑮クォーター末試験。バンドによるオリジナル楽曲の発表。

期末試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%

楽曲の実演と、譜面、シーケンスデータも併せて提出し、音楽的に成立している作品か否かを見極める

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽理論Ⅲ
担当講師名	吉岡靖高
学期	春学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

楽器演奏、作曲、アレンジをするために必要な知識や理論を学習し、音楽を自分なりに捉えることができる基礎力を養います。このような知識はプロとしては持っていないものではないものです。2年次ではコード進行の仕組やハーモニーの構築を理解し、幅広いジャンルの音楽に対応できるように学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期では音楽の基礎知識をしっかりと身に付けて、オーソドックスな楽曲のハーモニーやコード進行を自分でアナライズできるようにすることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①基礎確認：コード進行の分析、ドミナントモーション、ブルース、サブコード、などの1年時に学習した基礎知識の確認を行います。
- ②Passing diminished chord、Line Cliche、Pedal Point について学びます。
- ③転調(1)：転調の方法、種類について学習します。
- ④転調(2)：転調をふくむ楽曲のコード進行のアナライズの方法を学習します。
- ⑤転調(3)：転調をふくむ楽曲のコード進行のアナライズの方法を学習します。
- ⑥復習：このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦クォーター末試験：筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Available note scale(1): Available note scale について学習します。
- ⑨Available note scale(2): Available note scale について学習します。
- ⑩Available note scale(3): Available note scale について学習します。
- ⑪Available note scale(4): Available note scale について学習します。
- ⑫Modal Harmony(1): チャーチモードとモーダルハーモニーについて学習します。
- ⑬Modal Harmony(2): チャーチモードとモーダルハーモニーについて学習します。
- ⑭復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮期末試験: 筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。
授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽理論Ⅳ
担当講師名	吉岡靖高
学期	秋学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

楽器演奏、作曲、アレンジをするために必要な知識や理論を学習し、音楽を自分なりに捉えることができる基礎力を養います。このような知識はプロとしては持っていないものではないものです。2年次ではコード進行の仕組みやハーモニーの構築を理解し、幅広いジャンルの音楽に対応できるように学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学習したことを実際の楽曲に、演奏者としてまたはコンポーザー、アレンジャーとして使えるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Re-harmonization(1): コード進行をリハーモナイズする方法について学習します。
- ②Re-harmonization(2): コード進行をリハーモナイズする方法について学習します。
- ③Re-harmonization(3): コード進行をリハーモナイズする方法について学習します。
- ④Melody analysis(1): メロディーを分析する方法やアプローチノートの種類について学習します。
- ⑤Melody analysis(2): アプローチノートに対するハーモナイズの方法を学習します。
- ⑥復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦クォーター末試験: 筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Chord voicing(1): コード音の配置の方法、Closed、Drop2、Drop 3、Drop2&4 などのメカニカルヴォイシングについて学習します。
- ⑨Chord voicing(2): コード音の配置について。Open Voicing や Tension replacement の方法、Low interval limit について学習します。
- ⑩Upper structure triads (1): アップーストラクチャートライアドの作り方について、各コードタイプ、各適応スケール別に学習します。
- ⑪Upper structure triads (2): アップーストラクチャートライアドの作り方について、各コードタイプ、各適応スケール別に学習します。
- ⑫Upper structure triads (3): アップーストラクチャートライアドの作り方について、各コードタイプ、各適応スケール別に学習します。
- ⑬Hybrid chords: ハイブリッドコードの作り方と適応スケールの考え方を学習します。
- ⑭復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮期末試験: 筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	デビュー・就職講座 I・II
担当講師名	稲見英夫
学期	集中（春・秋）
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はこの科目の内容に関連する実務経験（TV、映画、CM の音楽制作など、作曲家、編曲家、マネージャーとしての活動）を持っております。

授業内容

ヴォーカリストとして、バンドとして、アーティストとして、音楽クリエイターやプロデューサーとしてデビューすることや自主的な専門活動を行うこと、または就職や進学を目指す卒業年次生が必要な知識を身に付けて希望進路の実現をサポートするための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デビュー、専門活動、就職、進学に関しての曖昧な情報や噂だけに基づいて行動すると進路実現が達成できません。この講座を受講することによって正確な情報を得て、的確な行動を行い、進路実現を達成できることを目標とします。春学期では全員が「プロフィール」と「デモ音源」を制作し、秋学期では自分の希望進路に基づいた就業活動内容のレポートを制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 進路についての考察を行い、進路の選択肢をしっかりと把握したうえで、自分の進路を決めるために注意すべきことを理解します。
- ② 専門活動・就職・進学について、それぞれの具体的な内容を把握します。
- ③ 安易にフリーターになってしまうと生じる中長期的な危険性と、フリーターを選択する場合の諸条件について理解します。
- ④ 音楽家は具体的にどのような手段で収入を得ているのかを把握します。
- ⑤ 音楽家としての能力や技術以外にも必要とされる事柄について把握します。
- ⑥ 音楽家になるために必要な基本ツールとしてのプロフィールとデモ音源の作成方法を学習します。
- ⑦ 自分の魅力を最大限に引き出せるデモ音源とプロフィールを作成し、提出します。

中間試験評価方法・評価基準

制作した「デモ音源」と「プロフィール」を提出。主にその体裁に対しての評価をします。(100%)

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 就職講座 (1) アルバイトと就職における金銭面や待遇面等の違いについて
- ⑨ 就職講座 (2) 自分に合った職種の探し方
- ⑩ 就職講座 (3) エントリーシートと履歴書の書き方と要点
- ⑪ 就職講座 (4) 面接対策
- ⑫ 就職講座 (5) 求人紹介と応募のすすめ (前編)
- ⑬ 就職講座 (6) 求人紹介と応募のすすめ (後編)
- ⑭ キャリアカウンセリングを用いた進路情報収集や進路相談等の活用方法について把握します。
- ⑮ 自分の希望進路に基づいた就業活動内容のレポートを制作し、提出します。

期末試験評価方法・評価基準

専門活動、就職、進学の中から希望の進路を1つ選択し、その就業活動実績に基づいた内容のレポートを提出。主にその内容と体裁に対しての評価をします。(100%)

特記事項

集中講座

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コンピューターリテラシー I
担当講師名	中村 大志
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽活動以外に、IT 会社勤務、自営業、会社経営の経験があります。

授業内容

(音楽含む) ビジネス活動全体に活かせるようなコンピュータの基礎知識の習得、また、それを応用できる力・考え方を身につける。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

PC の基礎知識、Microsoft Office (Excel、Word、PowerPoint) の基礎操作と実際の現場での Office ソフト利用を想定した課題で、IT 社会で最低限必要な知識の習得を目標とする。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① PC の基本操作 (1) : 電源操作、マウス操作、データ管理の説明。
- ② PC の基本操作 (2) : キーボード操作 (ショートカットキー、タイピング)
- ③ PC の基本操作 (3) : インターネットの知識、メールの送受信、ビジネスメール作法
- ④ Word (1) : ソフト概要説明、基本操作 (文字入力、文字の装飾)
- ⑤ Word (2) : インテンド、寄せ、均等割、段落設定
- ⑥ Word (3) : レイアウト設定、検索・置換、実践データの作成
- ⑦ 中間試験 : (1) Word を使用した課題提出、(2) タイピング能力

中間試験評価方法・評価基準

- (1) 課題の提出 (PC を利用した実技テストにて Word の習得状況を確認)。
- (2) タイピングの速度・成長度合いを確認。

出席 : 30% 平常時 : 30% 試験 : 40%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ 中間試験の解説 (Word)

- ⑨ Excel[基礎] (1) : 基本操作説明 (ソフト概要、作表、セルの書式設定)
- ⑩ Excel[基礎] (2) : 表計算 (四則演算、SUM 関数)
- ⑪ Excel[基礎] (3) : シートの操作 (追加、削除、保護)、並べ替え
- ⑫ Excel[基礎] (4) : 既存データの利用、大量のデータの扱い方
- ⑬ Excel[基礎] (5) : 行・列の追加やショートカットキーなどの機能紹介
- ⑭ Excel[基礎] (6) : (1) ~ (5) の復習、実践データの作成
- ⑮ 期末試験 : Excel を使用した課題資料提出

期末試験評価方法・評価基準

課題資料の提出 (PC を利用した実技テストにて Excel[基礎] の習得状況を確認)

出席 : 30% 平常時 : 30% 試験 : 40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コンピューターリテラシーⅡ
担当講師名	中村 大志
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽活動以外に、IT 会社勤務、自営業、会社経営の経験があります。

授業内容

(音楽含む) ビジネス活動全体に活かせるようなコンピュータの基礎知識の習得、また、それを応用できる力・考え方を身につける。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

PC の基礎知識、Microsoft Office (Excel、Word、PowerPoint) の基礎操作と実際の現場での Office ソフト利用を想定した課題で、IT 社会で最低限必要な知識の習得を目標とする。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① 期末試験の解説 (Excel[基礎])
- ② Excel[発展] (1) : AVERAGE・ROUND 関数の説明、利用シーンの解説
- ③ Excel[発展] (2) : IF・COUNTIF・SUMIF 関数の説明、利用シーンの解説
- ④ Excel[発展] (3) : VLOOKUP 関数の説明、利用シーンの解説
- ⑤ Excel[発展] (4) : グラフの作成
- ⑥ Excel[発展] (5) : Excel 総復習、実践データの作成
- ⑦ 中間試験 : Excel を使用した課題資料提出

中間試験評価方法・評価基準

課題資料の提出 (PC を利用した実技テストにて Excel[発展]の習得状況を確認)
出席 : 30% 平常時 : 30% 試験 : 40%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ 中間試験の解説 (Excel[発展])
- ⑨ PowerPoint (1) : 基本操作説明 (ソフト概要、基本操作)

- ⑩ PowerPoint (2) : アニメーション、画面切り替え効果の使い方説明
- ⑪ PowerPoint (3) : プレゼンテーション資料制作の基礎知識
- ⑫ PowerPoint (4) : 素材利用の著作権について
- ⑬ PowerPoint (5) : 自身や所属バンドのプレゼン資料制作 (1日目)
- ⑭ PowerPoint (6) : 自身や所属バンドのプレゼン資料制作 (2日目)
- ⑮ 作品発表 (期末試験) : 過去2回の授業で制作した自身や所属バンドのプレゼン資料を利用した発表会

期末試験評価方法・評価基準

課題の提出 (PowerPoint の操作理解度と作品のオリジナリティを確認)

出席 : 30% 平常時 : 30% 試験 : 40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コンピュータミュージックB I
担当講師名	山本英武
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界で 演奏活動、作曲、編曲、ディレクション、エンジニアリング（録音、エディット、ミックスダウン、マスタリング）などの経験を持ちます

授業内容

DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）「CUBASE」を使って現代の音源制作の基礎とアレンジの考え方を理解していきます。まず基本操作と共に音源完成までの流れを一緒に体験してCUBASE使って何が出来るのかを理解します

到達目標（この授業で何が出来るようになるのか）

「CUBASE」の基本的な使用方法とアレンジの構築の仕方の流れが理解出来るようになります。どのようにして音源が出来上がっていくのかを体験しながら理解することができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① DAWとは？コンピューターの基本操作-
DAWを使って何が出来るのか、また現在どのように使われているのか？1年間の授業内容全般の流れの説明をします
- ② 課題曲M1の配布-Cubaseの開き方から保存、終了の仕方、よく使うコンピューターのキーなどを理解します。まずは課題曲を使って全員で同じ操作をしてコンピュータそしてCubaseに慣れていきます。
- ③ ソフト音源（ドラム）の立ち上げ方-インストゥルメントトラックを作成してドラムのソフト音源を立ち上げてMIDIを打ち込みます。トラックの意味を理解します。
- ④ MIDIの打ち込み方-シンセサイザーの音源を立ち上げてベースをMIDIで打ち込みます。ベロシティや音の長さの調整を理解していきます。
- ⑤ 課題曲M2、インスペクターについて-複数のドラム音源を打ち込みます。音量やパンニングの調節の仕方、インスペクターの見かたや使い方を理解します。
- ⑥ ソフト音源の音色の選び方-プリセットされた音色から自分の探している音を絞り込んで選んでいきます。またその調整方法について理解します。

- ⑦ バランスの整え方-ミキサー画面を使って使って全体が聞きやすいようそれぞれのトラックの音量を調整していきます。

中間試験評価方法・評価基準

出席点70%提出物30%。課題曲①課題曲②それぞれをプロジェクトデータにて提出します。講師の指示通りにMIDIが入力出来ているか、基本操作が理解出来ているかや音量やバランスが適正になっているかなどをチェックします。この段階でしっかり理解する事がDAWの全体の理解につながります。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲M3の配布-課題曲のコードやこの曲を通して学ぶ目的を説明します。プロジェクトデータを開いて歌のデータを確認します。またコードトラックの使い方を理解します
- ⑨ アレンジの方向性を決める-アレンジの方向性に合ったドラムや楽器の音色を探していきます。内蔵ドラム音源、グループエージェントのより詳細な使い方を学びます。
- ⑩ プリセットパターンの使い方-すでにプリセットされているドラムのパターンの使い方を学び、トラックにMIDIとして張り付けて編集します。またメディアベイの使い方を理解します。
- ⑪ ベースの打ち込みと考え方-アレンジの方向性に合ったベースラインについての考え方と音色、ドラムとの組み合わせ方の基本について考えます
- ⑫ シンセサイザーの基本-シンセサイザーの基本的な知識、フィルターやレゾナンスについて学び、的確な音色を考え打ち込んでいきます。
- ⑬ 素材を使ってコーラスを作る-ピッチ（音程）を変えるプラグイン、ピッチコレクトを使ってサビなど必要な所にボーカル素材を使いコーラス（ハモリ）を作ります。
- ⑭ ボーカルにリバーブをかける-FXチャンネルを使ってボーカルにリバーブやディレイをかけ、センドを使ってエフェクトの量をコントロールします。
- ⑮ バランスを整えて提出-マスターチャンネルにプラグインを使って音圧を上げた後、全体のバランスを整えて提出します

期末試験評価方法・評価基準

出席点50%提出物50%。課題曲をアレンジしたプロジェクトデータを提出します。IQと違い自分なりにオリジナリティを考えアレンジ出来たか、またそのアイディア、ベロシティやタイミング、音色などが音楽的になっているかなどと共に、より操作が深く理解出来ているかなどをチェックします。

特記事項

この授業ではUSBメモリとヘッドホンもしくはイヤホン+ヘッドホン用変換プラグが必要です

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コンピュータミュージックBⅡ
担当講師名	山本英武
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界で 演奏活動、作曲、編曲、ディレクション、エンジニアリング（録音、エディット、ミックスダウン、マスタリング）などの経験を持ちます

授業内容

課題曲をアレンジしながら「CUBASE」のさらに詳しい操作方法と共に、イコライザーやプラグインを使って音質や音圧を高め、mp3やCDで聞けるように書き出すミックスダウンを学びます。またオーディオの録音方法やファイルへの扱い方を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲に対してよりの確なアレンジをした上で、イコライザーやコンプレッサー等、様々な種類のプラグインを理解し、またそれを使いこなすように。オーディオファイルの編集や音質調整の仕方を理解、対応出来るようにし、ゼロから音源完成まで1人で出来るようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 課題曲の説明と理解-課題曲のコードや構成、この曲を通して学ぶ目的を説明します。まずは曲を理解して方向性を考えていきます
- ② オーディオファイルの扱い方-オーディオファイルの見方や表示されている数値の意味や編集の仕方について理解していきます
- ③ プラグインについて-音色や音量に変化を付ける「プラグイン」の種類や使い方について解説し、理解していきます
- ④ アンブシュミレーターの使い方-ギターやベースの為のプラグインであるアンブシュミレーターの使い方について理解していきます
- ⑤ EQ（イコライザー）の使い方-音質調整の為に使うイコライザーについて、周波数帯域やQ（幅）、デシベル（量）やEQタイプについて理解していきます
- ⑥ ステムミックスについて-ドラムなどチャンネル数の多い楽器ごとにグループにまとめてバランスをとる方法、ステムミックスについて理解します
- ⑦ ミックスダウンと音圧-マキシマイザーなどを使い音圧を上げ、その上で音質を調

整していく方法について学んでいきます。

中間試験評価方法・評価基準

出席点50%提出物50%。課題曲をアレンジし、ミックスダウンしたプロジェクトデータを提出します。オーディオファイルに対してプラグインやイコライザーなどが的確に使われているかなど、オリジナリティに加え音響的な事も評価の対象になります

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 新規プロジェクトの立ち上げ-課題曲もしくはオリジナル曲をどのようにするか考え、一からプロジェクトを立ち上げていくやり方を理解します。
- ⑨ 仮のリズムやコードを入力-作業をスムーズに進めていく為に、テンポを決め一旦ラフにリズム、コード、メロディを入れていきます。
- ⑩ オーディオ録音の仕方-オーディオインターフェースの使い方や入力レベルの取り方また注意すべき点などについて学びます
- ⑪ テイク選びとクロスフェード-オーディオ録音で録ったテイクの良い部分を1トラックにまとめるやり方と繋げ方について学びます。
- ⑫ コンプレッサーの必要性和使い方-ボーカルや各楽器の音量調整の為に使うコンプレッサーについての基本知識や種類、使い方について学びます。
- ⑬ 空間系のプラグインについて-音に広がりを出すために空間系のプラグインの基本知識とその種類、適切なかけ方など使い方について学びます
- ⑭ オートメーションの使い方-より聞きやすくするために場所によって細かく音量などをコントロールする為に使う「オートメーション」について学びます
- ⑮ ミックスダウンした上でデータを提出-適切なバランスと音質に調整した後、2ミックスのオーディオファイルに書き出します。これまでの総まとめです。

期末試験評価方法・評価基準

出席点50%提出物50%。課題曲、もしくはオリジナル曲ををアレンジし、必要に応じてオーディオ録音し、ミックスダウンしたプロジェクトデータを提出します。ゼロから音源完成まで総合的に1人で出来るようになっているかなどをチェックします。

特記事項

この授業ではUSBメモリとヘッドホンもしくはイヤホン+ヘッドホン用変換プラグが必要です

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	オリジナル動画作品制作 B I
担当講師名	轟 光太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽プロダクションにてMVディレクション、Youtube 配信動画制作の実務経験を持ちます

授業内容

1年次に身に着けた撮影、編集技術を駆使して、内容にフォーカスした動画制作

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・ 作品内容が整理できる
- ・ グループ制作が出来る
- ・ 公開動画のルールを理解した作品制作

授業計画（1回目から7回目）

- ① 作品テーマ 発表 ～趣旨説明、グループ分け、公開動画制作のルールについて～
- ② 企画 ～グループで企画ミーティング～
- ③ 絵コンテ ～グループで絵コンテ作成～提出～
- ④ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑤ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑥ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑦ 試験 ～作品提出～

中間試験評価方法・評価基準

- ・ 作品成果（期日内の完成、内容の完成度、オーダーに対応しているか）
- ・ 出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作品観賞 ～1Qで制作した動画を観賞～
- ⑨ 作品テーマ発表 ～趣旨説明、参考動画観賞～
- ⑩ 企画 ～グループで企画ミーティング～
- ⑪ 絵コンテ ～グループで絵コンテ作成～提出～
- ⑫ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑬ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑭ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑮ 試験 ～作品提出～

期末試験評価方法・評価基準

- ・ 作品成果（期日内の完成、内容の完成度、オーダーに対応しているか）
- ・ 出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	オリジナル動画作品制作 BII
担当講師名	轟 光太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽プロダクションにてMVディレクション、Youtube 配信動画制作の実務経験を持ちます

授業内容

1年次に身に着けた撮影、編集技術を駆使して、内容にフォーカスした動画制作

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・見応えのある作品を制作
- ・グループ制作が出来る
- ・公開動画のルールを理解した作品制作

授業計画（1回目から7回目）

- ① 作品観賞 ～2Qで制作した動画を観賞～
- ② 作品テーマ 発表 ～趣旨説明、参考動画観賞～
- ③ 企画 ～グループで企画ミーティング～
- ④ 絵コンテ ～グループで絵コンテ作成～提出～
- ⑤ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑥ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑦ 試験 ～作品提出～

中間試験評価方法・評価基準

- ・作品成果（期日内の完成、内容の完成度、オーダーに対応しているか）
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作品観賞 ～3Qで制作した動画を観賞～
- ⑨ 作品テーマ発表 ～趣旨説明、参考動画観賞～
- ⑩ 企画 ～グループで企画ミーティング～
- ⑪ 絵コンテ ～グループで絵コンテ作成～提出～
- ⑫ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑬ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑭ 作品制作 ～グループで撮影～編集～
- ⑮ 試験 ～作品提出～

期末試験評価方法・評価基準

- ・ 作品成果（期日内の完成、内容の完成度、オーダーに対応しているか）
- ・ 出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽著作権 I
担当講師名	斉藤 剛
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はソニーミュージックグループの社員やアーティスト、その他、大学でも著作権を指導した経験を持ちます。

授業内容

レコード会社、プロダクションでの実務経験を活かしながら著作権ビジネスを分かりやすく解説していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

著作権法は音楽ビジネスのルールブックとも言われます。この授業を学ぶことにより、著作権が果たす創造のサイクルを理解するとともに、音楽家として活動していく上で必要となる音楽著作権の基礎（ルール）を身に付けることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① イントロダクション 音楽ビジネスと著作権
- ② 著作権制度の概要
- ③ 著作者の権利（1） 著作物とは
- ④ 著作者の権利（2） 著作者とは
- ⑤ 著作者の権利（3） 権利の内容
- ⑥ 著作者の権利（4） 保護期間
- ⑦ 中間試験

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテスト（100点満点）100% 但し、欠席1日につきマイナス5点

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 著作隣接権（1） 実演家の権利

- ⑨ 著作隣接権 (2) レコード製作者の権利
- ⑩ 他人の著作物を利用する方法
- ⑪ 著作権の制限 (1) 私的使用
- ⑫ 著作権の制限 (2) 引用
- ⑬ 著作権が侵害された場合の対抗措置
- ⑭ 国際条約等、これまでのまとめ
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテスト (100 点満点) 100% 但し、欠席 1 日につきマイナス 5 点

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽著作権Ⅱ
担当講師名	斉藤 剛
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はソニーミュージックグループの社員やアーティスト、その他、大学でも著作権を指導した経験を持ちます。

授業内容

レコード会社、プロダクションでの実務経験を活かしながら著作権ビジネスを分かりやすく解説していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

著作権法は音楽ビジネスのルールブックとも言われます。この授業を学ぶことにより、著作権が果たす創造のサイクルを理解するとともに、音楽家として活動していく上で必要となる音楽著作権の基礎（ルール）を身に付けることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 復習（1） 著作者の権利
- ② 復習（2） 著作隣接権
- ③ 肖像権、パブリシティ権
- ④ 配信ビジネスと著作権
- ⑤ アーティスト活動と著作権（1） 実演
- ⑥ アーティスト活動と著作権（2） 創作活動
- ⑦ 中間試験

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテスト（100点満点）100% 但し、欠席1日につきマイナス5点

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ プロダクションと著作権（1） プロダクションの役割
- ⑨ プロダクションと著作権（2） アーティストとの契約
- ⑩ レコード会社と著作権（1） レコード会社の役割
- ⑪ レコード会社と著作権（2） 原盤契約、実演家契約

- ⑫ 音楽出版社と著作権 音楽出版社の役割
- ⑬ ケーススタディ (1)
- ⑭ ケーススタディ (2)
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテスト (100点満点) 100% 但し、欠席1日につきマイナス5点

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	マネジメント研究 I
担当講師名	小宮山 博之
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサート制作・コンサートプランニング・プロダクションマネジメント・アーティストマネジメント・CM キャスティングなどの実務経験を持ちます。

授業内容

音楽業界全般、用語解説からマネジメントの実務、ドラッガー、コッターの考察まで広範囲にわたって学び、自分自身の人生計画に落とし込むことを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽業界の入門業界用語から学び、マネジメント理論を応用して物事を計画的に進めることを会得します。PDCA サイクル・フィッシュボーンチャート・マンダラチャート

授業計画（1回目から7回目）

- ①音楽業界用語と自己スケジュール作成
- ②音楽業界用語と MUSICMAN-NET の見方
- ③イベントの仕事、業務内容、会社の種類
- ④レコード会社、音楽制作会社 音楽を作る仕事
- ⑤プロダクション 音楽制作者連盟・音楽事業者協会
- ⑥代理店(CM)・媒体・音楽出版社について
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧マネージャーの仕事
- ⑨どのようにプロモーションするか。
- ⑩音楽ビジネスとマネジメント
- ⑪音楽ビジネスとマネジメント 02
- ⑫音楽ビジネスとマネジメント 03

⑬レコード会社とレーベルの違い それぞれの仕事

⑭舞台用語音響照明用語

⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	マネジメント研究 I
担当講師名	小宮山 博之
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサート制作・コンサートプランニング・プロダクションマネジメント・アーティストマネジメント・CM キャスティングなどの実務経験を持ちます。

授業内容

音楽業界全般、用語解説からマネジメントの実務、ドラッガーの考察まで広範囲にわたって学び、自分自身の人生計画に落とし込むことを学びます。
PDCA サイクル・フィッシュボーンチャート・マンダラチャート

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽業界の入門業界用語から学び、マネジメント理論や各種チャートを応用して物事を計画的に進めることを会得します。セルフマネジメントできるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①各種契約書について(タレント契約書)
- ②各種契約書について(専属契約書)
- ③各種契約書について(コンサート契約書)
- ④バンドのテーマ、所属バンドとサポートバンド両立
- ⑤就職対策 一般常識問題へのアプローチ
- ⑥就職対策 面接者と試験官の気持ちを推察
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧求人票の見方、会社ってなんだ 会社の種類
- ⑨領収書 請求書の書き方
- ⑩マンダラチャート 長所と短所 私の計画

- ⑪ドラッグーマネージメント理論
- ⑫Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）adjust（調整）
- ⑬魚の骨・自己スケジュールの修正/自己目標への絞り込み
- ⑭残りの学生生活の過ごし方・出勤初日の心構え
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%、平常点 25%、出席 25%、授業内容をどれだけ理解できていたかというところで評価します。また授業態度、出席率も併せて評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の教え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽英会話初級中級 b
担当講師名	ツアイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接(大学)
- ⑨面接(仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介Ⅰ
- ⑫コンサート紹介Ⅱ
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	企業研究
担当講師名	学科
学期	通年
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

2年次にキャリアセンターと連動して就職活動にかかわる企業を集中的に研究する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

世の中には様々な企業が存在し、どのような形で利益を得ているか、研究し、自分たちがもらう給料の出所を探る。それにより自分たちがその会社で何を求められているか、考えられるようになり、自主性が生まれ、指示を受けなくても動ける人物になることを目指す

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

レポートで評価

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

レポートで評価

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	レコーディング
担当講師名	学科
学期	通年
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

プロプロダクションで教わる内容を基に本格レコーディングの実践をスタジオ見学や学内においてレコーディングを経験する。実際の録音音源を聞いて、収録録り直すことの繰り返しで身に着ける集中講義

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

世の中には様々な企業が存在し、どのような形で利益を得ているか、研究し、自分たちがもらう給料の出所を探る。それにより自分たちがその会社で何を求められているか、考えられるようになり、自主性が生まれ、指示を受けなくても動ける人物になることを目指す

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

レポートと実演で評価

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

レポートと実演で評価

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インターンシップ I・II
担当講師名	
学期	春・秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部の催事やメディア出演等の学外活動、外部企業や音楽事務所等での研修を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動や、企業研修を体験することにより、実務的な経験と実績を得ることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等を評価します。

特記事項

学外活動や企業研修の機会を得る為には、それ相応の知識と技術に加え、コミュニケーション能力や各種マナーをはじめとする社会性も十分に備わっていることが必要になります。

す。